

大学における公共獣医事教育推進委託事業
分野 2 『畜産等分野における全国の実習システムの構築』
平成 28 年度業務成果報告

岐阜大学

平成 28 年度実績報告目次

はじめに	P1
管理運営組織	P2
平成 28 年度事業概要	P3
実績報告 1) 実習プログラムの実施 ①全国獣医系 16 大学に実習実施の案内および説明 ②実習プログラム概要および募集に関する手続き、参加の手引きのダウンロード等の情報をホームページ上で提供 ③全国の NOSAI で実習プログラム実施	P4-P16
2) 実習プログラムの改善と開発 ①実習後の学生の意見収集(実習日誌、レポート、実習後アンケート) ②学生および実習現場からの意見をもとに、問題点の洗い出しと実習プログラムの改善および開発 ③実習担当者(NOSAI や家畜保健衛生所など)との意見交換	P17-P30
関連会議等 1) 第 1～3 回コーディネーター打合せ会議 ①第 1 回コーディネーター打合せ会議・議事次第 ②第 2 回コーディネーター打合せ会議・議事次第 ③第 3 回コーディネーター打合せ会議・議事次第	P31-P40
2) 全国獣医系大学関係代表者協議会における事業説明 ①第 105 回全国大学獣医学関係代表者協議会 ②第 106 回全国大学獣医学関係代表者協議会	P41
3) 実習担当者会議	P42-P45
4) シンポジウム(関連フォーラム)の開催	P46-P62
5) 個別協議	P63
6) 平成 26-28 年度事業のまとめ	P64-78

大学における公共獣医事教育推進委託事業 分野 2 『畜産等分野における全国の実習システムの構築』

はじめに

公共獣医事は、国または地方公共団体等が実施する獣医関連事業であり、「食の安全・安心の確保」と「国民の保健衛生の向上」のために「産業動物の健康管理」、「食品の安全性確保」、さらに「国民の保健衛生管理」等を目的とする。公共獣医事の業務には、畜産等分野に関わる家畜の生産指導・健康管理および家畜防疫・保健衛生等と、公衆衛生分野に関わる食肉検査および食品衛生管理等がある。畜産等分野では、家畜の生産指導・健康管理等を主として農業共済団体(以下、NOSAI と記す。)の家畜診療所が、家畜防疫・保健衛生等を家畜保健衛生所が担っている。産業動物臨床の最前線である NOSAI(家畜診療所)と家畜保健衛生所との間では、家畜疾病の予防、診断、蔓延防止および治療のため日常的に業務の連携がなされている。NOSAI(家畜診療所)と家畜保健衛生所の連携のあり方を総合的かつ実践的に学ぶことのできる全国の実習システムを構築することが、分野 2 の目的である。先般の文部科学省「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」によって、全国大学獣医学関係代表者協議会のもとで、全国農業共済協会(NOSAI 全国)の協力を得て NOSAI 夏期臨床実習システムを構築した。このシステムを発展させ、獣医学生が NOSAI(家畜診療所)において、産業動物診療を学ぶ中で必要に応じて家畜保健衛生所との業務連携(採材、検査、病理解剖、病理組織診断等)を実体験させることで、畜産関係の公共獣医事教育の充実・強化に大きく寄与することになる。

平成 26 年度はまず実習環境の整備をするために、実習プログラムと参加・登録システムの開発をした。平成 27 年度は 10 ヶ所の NOSAI において、家畜保健衛生所との連携を配慮した実習を実施、平成 28 年度はその実習を全国の NOSAI および家畜保健衛生所にて展開した。

管理運営組織

本事業の役割分担及び事業担当者

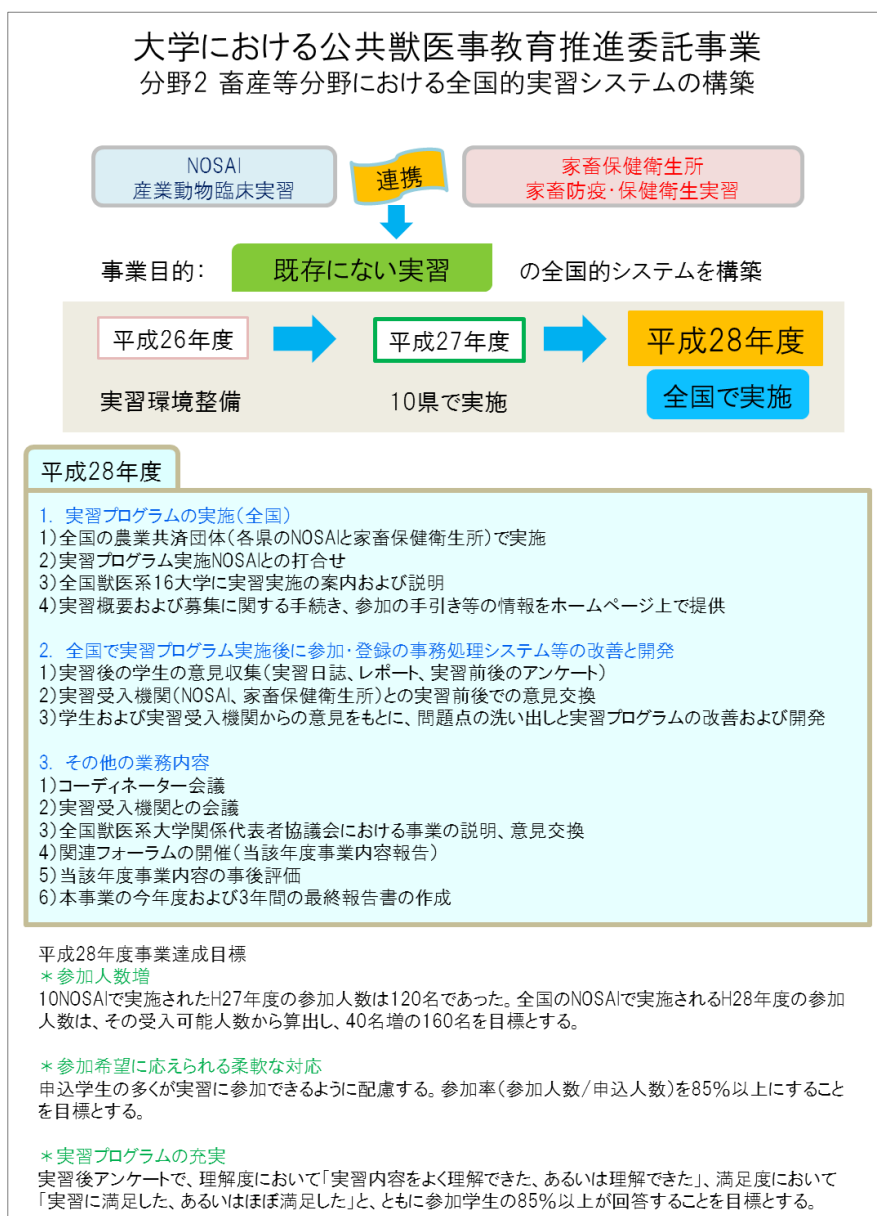
氏名	所属部局・職名	本事業における役割
森脇 久隆	岐阜大学・学長	事業推進代表者
北川 均	岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科・教授	事業推進責任者 事業全体の統括
小森 成一	岐阜大学応用生物科学部・特任教授	チーフコーディネーター 岐阜大学における事業統括, 連携大学との連絡調整および産業動物臨床実習内容の調整
田島 誉士	酪農学園大学獣医学群獣医学類・教授	連携コーディネーター 酪農学園大学における事業の統括および産業動物臨床実習の調整
菊池 元宏	北里大学獣医学部獣医学科・准教授	連携コーディネーター 北里大学における事業の統括および産業動物臨床実習の調整
窪田 力	鹿児島大学共同獣医学部獣医学科・教授	連携コーディネーター 鹿児島大学における事業の統括および産業動物臨床実習の調整
大場 恵典	岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科・教授	コーディネーター 事業実施全般の統括
村上 章	岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科	事業補助員 実習プログラムの内容を検討、実習プログラムの試行を実施、実習プログラムの修正・改善する。
中川 亜古	岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科	事務補佐員 事業の事務全般(申込受付、登録、外部専門機関、全国獣医系 16 大学との募集要綱、参加申込、受入決定等の通知)

平成 28 年度事業概要

本事業では、公共獣医事に係る実習プログラムとして家畜衛生分野と産業動物診療分野を連携させた実習プログラムを開発し、このプログラムを実施する実習システムを構築する。実習プログラムの目的は、臨床現場における家畜防疫・保健衛生などに重点を置き、家畜保健衛生所と NOSAI(家畜診療所)との連携に焦点を当て、家畜の診断、治療から防疫・保健衛生に至る総合的かつ実践的な専門知識・技能も併せもった獣医師を養成することである。

平成 28 年度は委託事業の最終年度として、平成 26 年度開発した実習プログラムを全国の NOSAI 及び関連都道府県(家畜保健衛生所)で実施するとともに、その実施結果を踏まえた実習プログラムの改善を目標とし、産業動物獣医師の進路を希望する学生全てに実習システムを提供することを目指した。

図 1



実績報告

1) 実習プログラムの実施

①全国獣医系 16 大学に実習実施の案内および説明

新規実習プログラムを実施するために、全国獣医系 16 大学の担当教員宛に以下の募集案内および申込手続方法に関する説明書を送付し、実習参加学生のとりまとめを依頼した。

NOSAI

夏期臨床実習

2016年募集案内

「産業動物臨床 -獣医学生応援プロジェクト-」

大学における公共獣医事教育委推進委託事業（文部科学省）
分野2畜産等分野における全国的システムの構築

概 要	NOSAI夏期臨床実習は、将来の産業動物臨床を担う獣医師の養成を目的として、獣医学生に対し、NOSAI（農業共済団体等）における往診随行などの臨床実習を提供するものです。産業動物臨床に必要な実践的な知識・技能を習得するとともに、家畜共済事業の役割やNOSAI家畜診療所の業務等を理解することを目指します。
スタンダード編と ステップアップ編	スタンダード編は、実習生の学年や理解度に応じて、産業動物臨床に興味を持つこと、NOSAIの仕組みや家畜診療所の業務等を理解することを目的とした実習、産業動物臨床に必要な実践的な知識・技術を習得することを目的とした実習等を行います。 ステップアップ編は、産業動物臨床獣医師を志す学生を対象として、将来の診療業務に直接結びつくような、より発展的な実習を行います。北海道・宮城県・山形県・千葉県・兵庫県・島根県・岡山県・広島県・宮崎県・鹿児島県のNOSAIで実施します。
参加申込方法	申込みには「仮申込」と「本申込」があります。 仮申込のままでは申し込んだことにはなりません。 【仮申込：学生が行う】 NOSAI夏期臨床実習ホームページ上で学生が仮申込を行ってください。 【本申込：担当教員が行う】 本申込に必要な提出書類を所属大学のNOSAI夏期臨床実習担当教員へ提出してください。 「産業動物臨床 -獣医学生応援プロジェクト-」 https://www.animalhospital.gifu-u.ac.jp/koutei/ * 仮申込および本申込の詳細についてはホームページ上の「参加申込手続きの流れ」を参照してください。
参加募集開始と 申込期限	ステップアップ編 平成28年4月8日（金）～4月28日（木）（岐阜大学必着） スタンダード編 平成28年4月15日（金）～6月7日（火）（岐阜大学必着） ※ただし、所属大学のNOSAI夏期臨床実習担当教員への申込期限は大学により異なるので、個別に確認をしてください。

スタンダード編と ステップアップ編 について

スタンダード
編

ステップアップ
編

目的

産業動物臨床
について知り、
持つ

実習
対象者

産業動物臨床
味・関心があ

実施
NOSAI

家畜診療所が
ており実習受
全国のNOSAI

NOSAI
夏期臨床実習

NOSAI夏期臨床実習担当教員の皆様へ

平成28年度NOSAI夏期臨床実習について

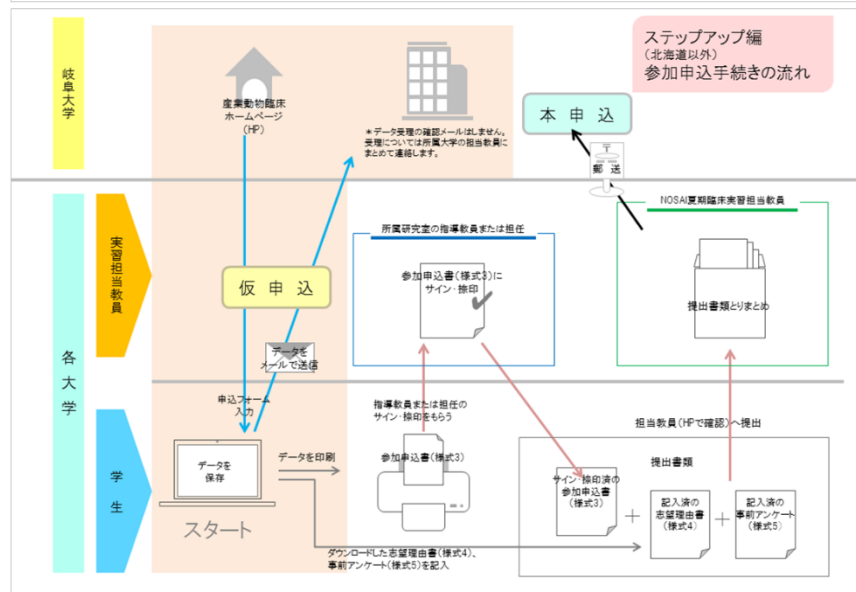
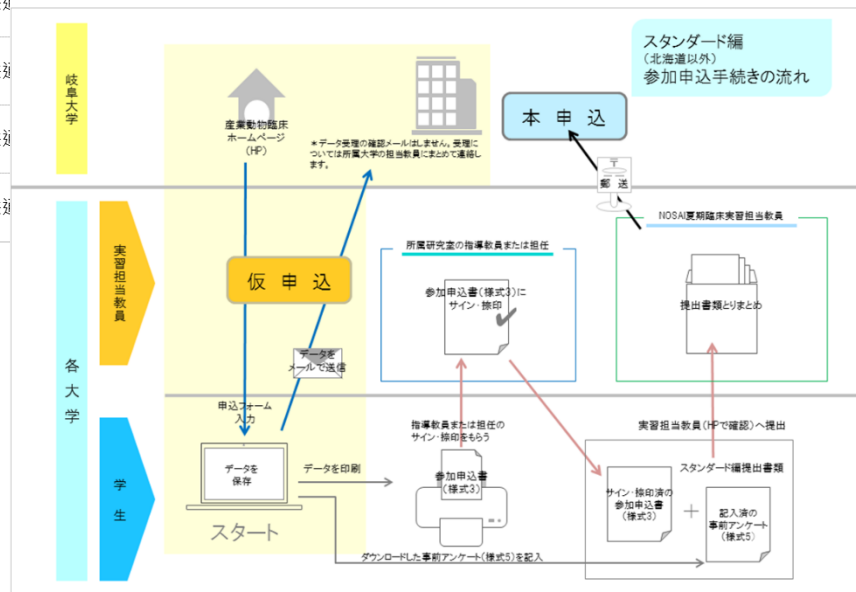
1.参加手続き

参加申込方法	<p>申込みには「仮申込」と「本申込」があります。仮申込のままでは申し込んだことにはなりません。</p> <p>【仮申込：学生が行う】 NOSAI夏期臨床実習ホームページ上で学生が仮申込を行います。</p> <p>【本申込：担当教員が行う】 本申込として提出する貴大学の参加希望学生の参加申込書類（下記）をとりまとめNOSAI夏期臨床実習事務局（岐阜大学）へ郵送してください。</p> <p>* 仮申込から本申込の流れの詳細については「3.申込方法の変更点（参加申込手続きの流れ）」を参照してください。</p>
参加申込書類	<p><スタンダード編> 1.参加申込書（様式3） 2.志望理由書（様式4・北海道実習希望者のみ必要） 3.事前アンケート（様式5） 4.推薦書（様式6・北海道実習希望者のみ必要）</p> <p><ステップアップ編> 1.参加申込書（様式3） 2.志望理由書（様式4） 3.事前アンケート（様式5） 4.推薦書（様式6・北海道実習希望者のみ必要）</p>
参加申込期限	<p><スタンダード編>平成28年6月7日（火）（岐阜大学必着） <ステップアップ編>平成28年4月28日（木）（岐阜大学必着）</p>
参加決定通知と参加決定後に提出する書類のとりまとめ	<p>受入NOSAIと調整のうえ各学生の実習参加の可否を決定し、各大学のNOSAI実習担当教員にお知らせします。 所属学生に通知いただき、所属学生が実習に参加する場合には、上記「参加申込書類」をNOSAI夏期臨床実習事務局（岐阜大学）へ提出してください。</p>
「参加決定後に提出する書類」の提出期限	<p><スタンダード編>平成28年7月13日（水）（岐阜大学必着） <ステップアップ編>平成28年6月6日（月）（岐阜大学必着）</p>
申込書類の提出先	<p>NOSAI夏期臨床実習事務局 岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科 産業動物臨床学研究室 大場恵典 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 TEL&FAX：058-293-2896 メールアドレス：ohba@gifu-u.ac.jp</p>

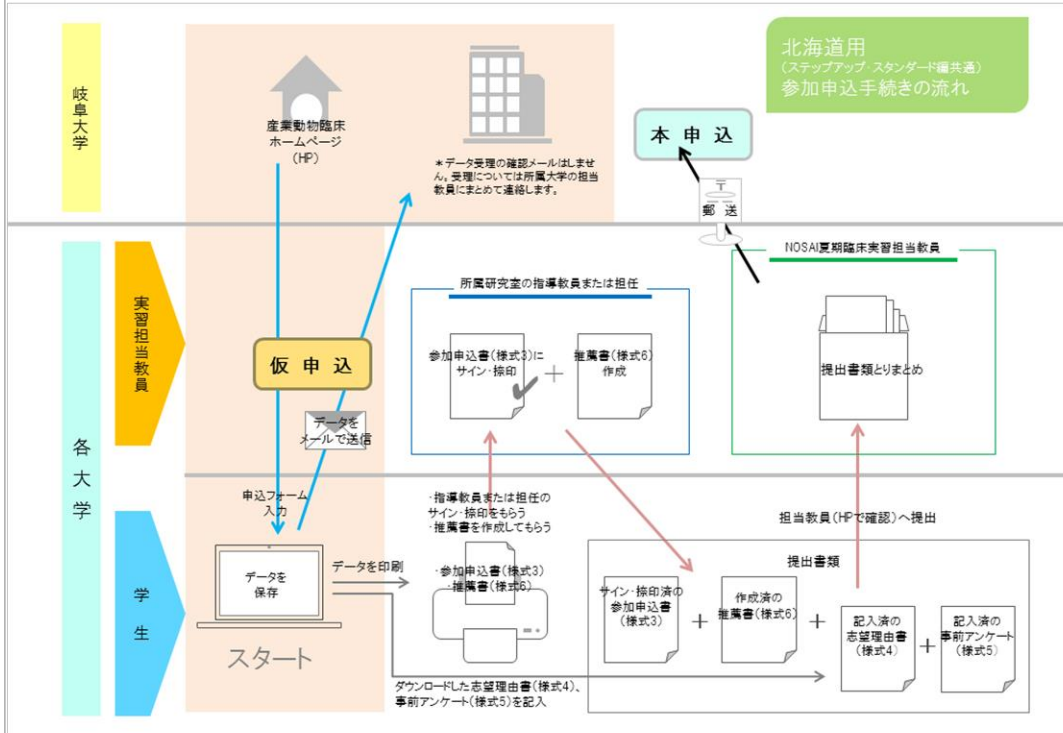
2.手続き日程					
日程 (締め切り日)		実習区分	手続き内容	担当組織	
4月	8日(金)	ステップアップ	募集開始	岐阜大学	- 16大学
	15日(金)	スタンダード	募集開始	岐阜大学	- 16大学
	28日(木)	ステップアップ	申込締切	16大学	- 岐阜大学
5月	30日(月)	ステップアップ	実習生受入先通知	岐阜大学	- 16大学
6月	6日(月)	ステップアップ	追加書類の提出期限	16大学	- 岐阜大学
	7日(火)	スタンダード	申込締切	16大学	- 岐阜大学
7月	6日(水)	スタンダード	実習生受入先通知	岐阜大学	- 16大学
	13日(水)	スタンダード	追加書類の提出期限	16大学	- 岐阜大学

受入決定通知書受領後速やかに	共通
実習	共通
実習終了後1週間以内	共通
そろい次第	共通

3.申込手続きの流れ



3. 申込手続きの流れ



4. ホームページ

学生向けの手引きおよび必要書類等は「産業動物臨床一獣医学生応援プロジェクト」ホームページからダウンロードできます。(アドレス) <https://www.animalhospital.gifu-u.ac.jp/koutei/>

5. 注意事項

- ※参加の募集開始がスタンダード編とステップアップ編で異なります。ホームページに「受入可能NOSAI一覧」が掲載され次第、募集開始となります。
- ※参加申込期限がスタンダード編とステップアップ編で異なります。
- ※北海道における実習について
 - ・北海道の実習対象者は北海道のNOSAIに就職を希望する者に限ります。
 - ・北海道における実習は、学生が実習を希望する組合を指定し、受入先診療所は受入組合が指定します。(希望診療所を指定することはできません。)
 - ・北海道での実習を希望する場合は、参加申込の必要書類が異なりますので、注意してください。

6. お願い

NOSAI夏期臨床実習担当教員の通知について
大学毎にNOSAI夏期臨床実習担当教員を定め、参加手続きのとりまとめを行っていただくようお願いいたします。学生が容易に担当教員にアクセスできるように、各大学の担当教員名および所属研究室名のリストをホームページに掲載します。(別紙2)「平成28年度NOSAI夏期臨床実習担当教員および事務職員」を作成していただき、NOSAI夏期臨床実習事務局へ4月6日(水)までにメールにてご返信ください。前年度から担当者に変更がない場合も、お手数ですがご記入の上、通知ください。よろしくお願いたします。

②実習プログラム概要および募集に関する手続き、参加の手引きのダウンロード等の情報をホームページ上で提供

図 1 実習概要、具体的実習内容、参加申込手続き等ホームページ上で公開した。

参加の手引き

「平成28年度 NIOSAI夏期臨床実習 参加の手引き」は、「スタンダード編の手引き」「ステップアップ編の手引き」に分かれています。また、仮申込をおこなうための参加申込書(様式3)作成用の専用申込フォームや手引きは更新される場合がありますので、随時このページで最新版をチェックしてください。

スタンダード編の手引き 最新:平成28年4月6日

平成28年度 NIOSAI夏期臨床実習
参加の手引き「スタンダード編」提出書類含む一括ダウンロード PDF 約715KB

「参加の手引き」にある「4.提出書類の様式」は、以下からもダウンロードできます。Microsoft® Word®形式、またはPDF形式を選んでください。

様式3	スタンダード編 参加申込書 ただし、申込の際は、「参加申込書(様式3)作成用の専用申込フォーム」を利用し、書面配布版の様式3は使用しないでください。	
様式4	スタンダード編 北海道実習用 志望理由書	Microsoft® Word® (zip形式で圧縮しています)
様式5	スタンダード編 事前アンケート	
様式11	スタンダード編 誓約書	
様式8	スタンダード編 北海道実習用 推薦書	
様式14	スタンダード編 実習日誌	
様式15	スタンダード編 北海道実習用 実習レポート	
様式16	スタンダード編 終了後アンケート	

ステップアップ編の手引き 最新:平成28年4月6日

平成28年度 NIOSAI夏期臨床実習
参加の手引き「ステップアップ編」提出書類含む一括ダウンロード PDF 約700KB

「参加の手引き」にある「4.提出書類の様式」は、以下からもダウンロードできます。Microsoft® Word®形式、またはPDF形式を選んでください。

様式3	ステップアップ編 参加申込書 ただし、申込の際は、「参加申込書(様式3)作成用の専用申込フォーム」を利用し、書面配布版の様式3は使用しないでください。	
様式4	ステップアップ編 志望理由書	Microsoft® Word® (zip形式で圧縮しています)
様式5	ステップアップ編 事前アンケート	
様式8	ステップアップ編 北海道実習用 推薦書	
様式11	ステップアップ編 誓約書	
様式14	ステップアップ編 実習日誌	
様式15	ステップアップ編 実習レポート	
様式16	ステップアップ編 終了後アンケート	

参加申込書(様式3)作成用の専用申込フォーム

最新: NosiForm390-160-1

申込みの流れ(※クリックで「参加申込手続きの流れ」の図が参照できます。)

参加申込書(様式3)作成用の専用申込フォームは、スタンダード編・ステップアップ編共通です。

図 2-3 本事業ホームページから、参加希望学生が、専用申込フォームをダウンロードし、参加申込を行う。

図 2

参加申込書（様式3）作成用の専用申込フォームのSTEP1

STEP1では、あなたの学年と実習先の第一希望を選択してください。

ここで選択した内容がSTEP2に引き継がれます。STEP2では、STEP1で入力した内容は変更できません。

参加申込書（様式3）作成用の専用申込フォームのSTEP2

STEP2では、あなたの個人情報や実習希望の詳細を入力してください。

フォーム内の項目は「必須入力」とされている項目をすべて入力してください。入力がエラーがあるままSTEP3へ進もうとすると、下図の例のように該当項目が赤字で表示されますので、確認して全ての項目を正しく入力してください。

!! 在籍大学を入力してください(必須入力)

大学名 研究科

学年年次 2 年次

所属研究室 研究室 未所属

指導教員 教員 非常勤

!! 実習希望の入力欄では、組合Noまたは診療所Noの正しい入力が必要です。このホームページに掲載されている受入可能NOSAI一覧の組合No・診療所Noを確認して入力してください。
[スタンダード編はこちら](#)
[ステップアップ編はこちら](#)

図 3

参加申込書（様式3）作成用の専用申込フォームのSTEP3

STEP3では、入力内容の最終確認をおこなってください。ここから先の画面へ進むと、一切の修正ができなくなります。

修正する場合は、画面最下部の「STEP2に戻って修正する」をクリックしてください。

参加申込書（様式3）作成用の専用申込フォームのSTEP4

STEP4では、あなたの申込番号が表示されるとともに、仮申込の手続きが案内されます。画面の案内に従って「参加申込書（様式3）を表示して印刷」と「メール送信用仮申込データの保存」および「参加申込書（様式3）をPDFにする」の3つの処理をおこなってください。

!! 必ず、印刷と電子データの送信の両方、および申込書のPDFでの保存を実施してください。

万が一、全ての処理を完了しないまま画面を閉じてしまった場合は、再度STEP1からやりなおしてください。その場合、申込番号は再発行されますので、古い申込番号で作成したデータまたは書類は破棄し、最後に発行された申込番号で作成したデータおよび書類のみを使用してください。

申込番号は、メール送信用仮申込データと印刷用画面（参加申込書（様式3））を関連づける重要な役割をはたしています。データと書類が異なる申込番号で仮申込が行われた場合、受理できませんのでご注意ください。

!! メール送信用仮申込データは、事務局でのみ解読可能な暗号化されたデータです。

図4 全国獣医系16大学に実習担当教員を定め、実習参加希望学生が容易に担当教員にアクセスできるように、各大学の担当教員リストをホームページに掲載した。

NOSAI夏期臨床実習 各大学担当教員		
大学	担当教員	所属研究室
北海道大学	永野 昌志	診断治療学講座 繁殖学教室
帯広畜産大学	羽田 真悟	臨床獣医学研究部門（繁殖）
岩手大学	一條 俊浩	産業動物内科学
	小林 沙織	小動物病態内科学
	山崎 真大	小動物病態診断学
東京大学	杉浦 勝明	国際動物資源科学
	綱嶋 るみ	
東京農工大学	清水 美希	獣医画像診断学
岐阜大学	大場 恵典	産業動物臨床学
鳥取大学	太田 利男	獣医薬理学
山口大学	谷口 雅康	獣医繁殖学
宮崎大学	野中 成晃	獣医寄生虫病学
鹿児島大学	窪田 力	臨床獣医学講座
大阪府立大学	川手 憲俊	獣医繁殖学
酪農学園大学	田島 誉士	生産動物内科学 I
北里大学	菊池 元宏	獣医臨床繁殖学
日本大学	堀北 哲也	獣医産業動物臨床
	大滝 忠利	獣医臨床繁殖学
麻布大学	金子 一幸	臨床繁殖学
日本獣医生命科学大学	教務・学生課にお問い合わせください。	

③全国のNOSAIで実習プログラム実施

平成28年度夏期臨床実習

平成28年度は、前年度に10道県のNOSAI(以下、10NOSAIと記す)において実施した実習プログラムを全国のNOSAIおよび関連都道府県(家畜保健衛生所)で実施した。

図1 実習申込人数および参加人数

家保との連携業務を必要に応じて実体験させるプログラムを盛り込んだ夏期臨床実習を平成28年度は全国のNOSAIに広げて実施した。全国展開した実習の申込および参加人数を図1に示す。申込人数172名のうち166名が参加となったが、参加に至らなかった6名については、学生の希望する実習期間と受入先との日程が合わなかったためである。

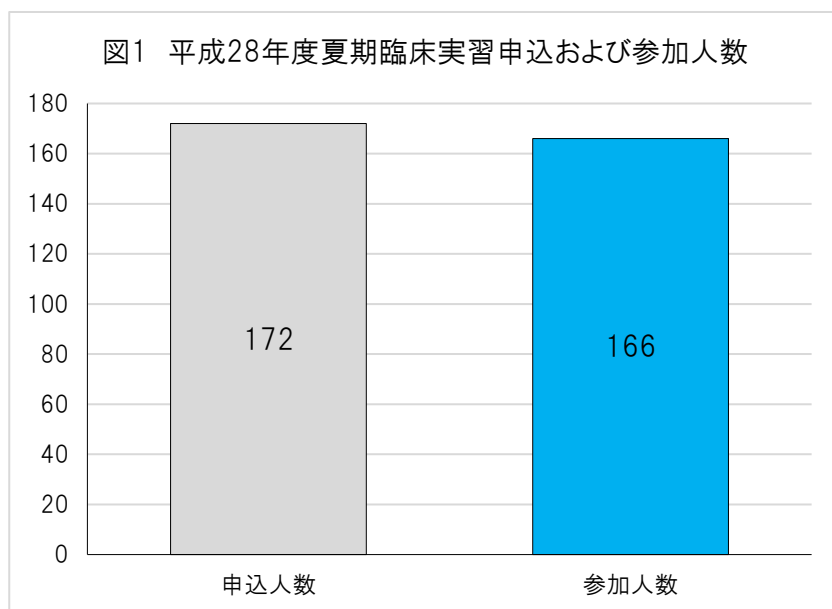


図 2-3 実習生の内訳

実習生の男女比を図 2 に、学年別の男女数内訳を図 3 に示す。実習への参加は、これまでと同様に女子学生の方が多かった。学年別では、4 年生は、男女がほぼ同数であったが、5 年生と 1-3 年生は女性の参加が多かった。このことについては、獣医系大学に在籍している学生は女性が多いことと、女性が実習により積極的に参加する傾向にあることを反映していると考えられる。

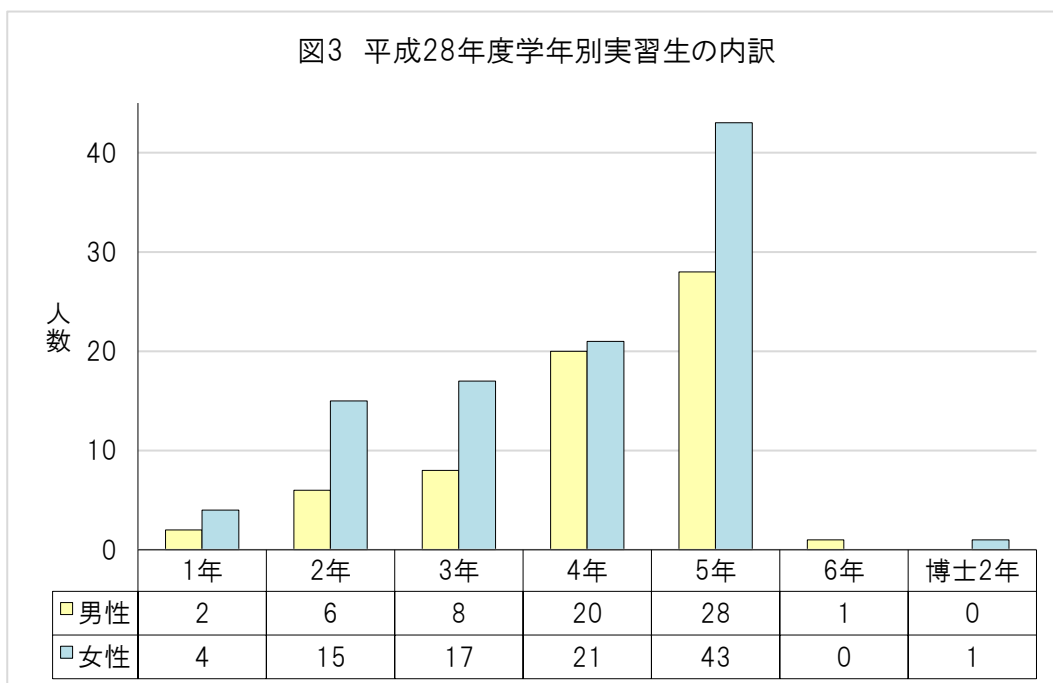
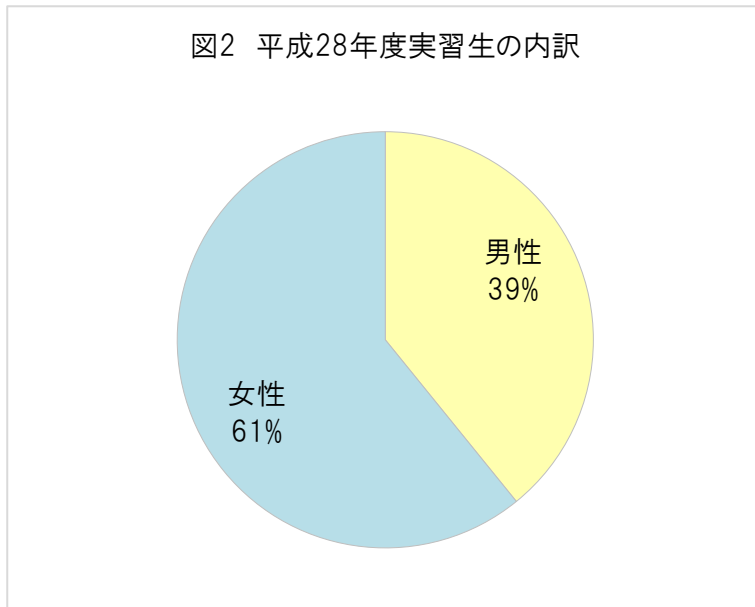


図4 学年別申込人数および参加人数

申込者および参加者ともに5年次が43%と最も多かった。1-4年次からの参加者は57%であり、学年が高くなるとともにその参加者数も多くなった。さらに今年度は博士課程2年からの参加者が1名あった。

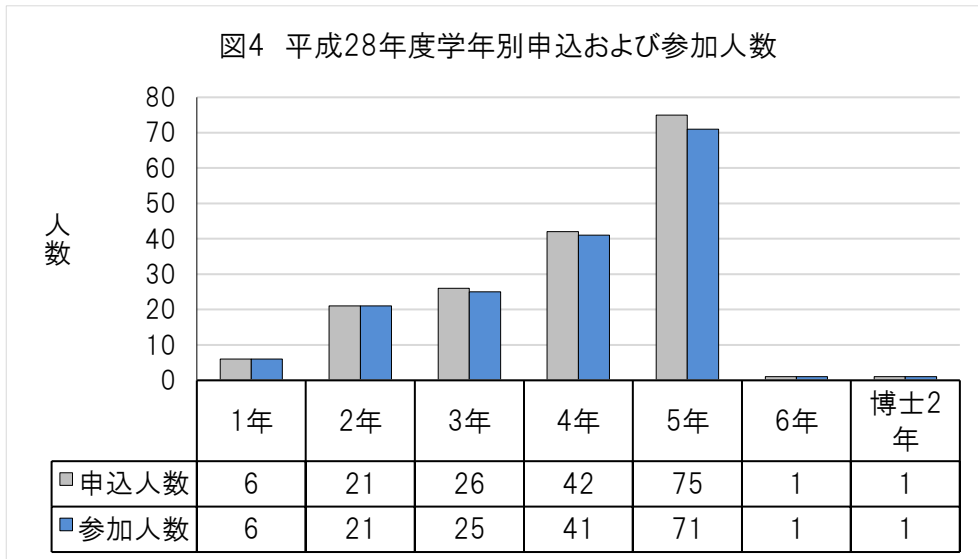


図5 大学別申込および参加人数

獣医系16大学のうち15大学から申込みおよび実習参加があった。参加者数は私立大学が多い傾向にあるが、学生定員数を考慮すると国立大学からの参加もかなり多いと考えられる。

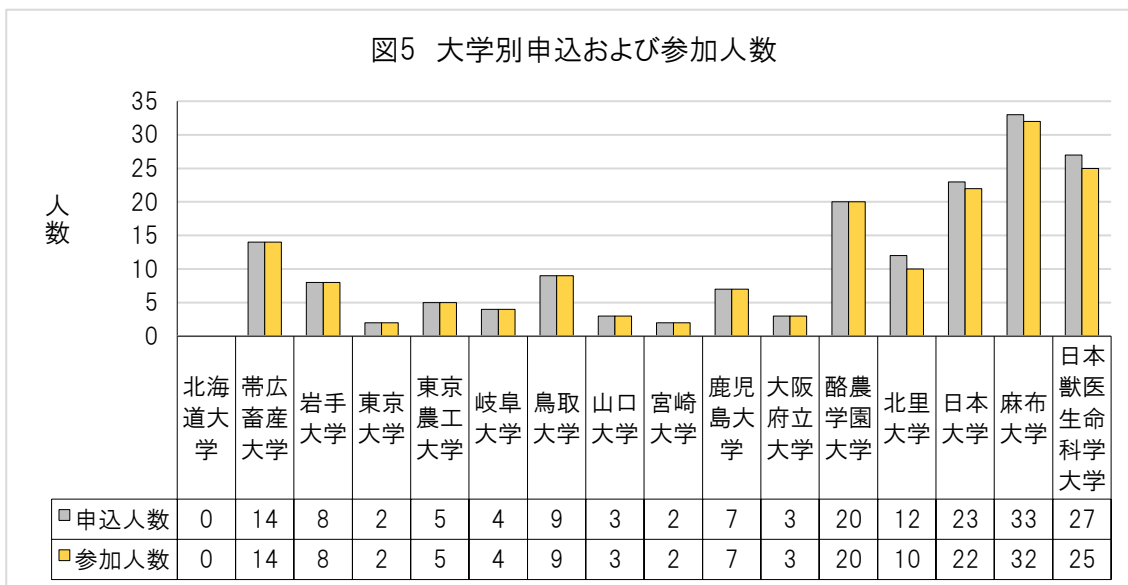


図6 道県別の実習参加人数

道県別の実習参加人数を図6に示す。受入れ可能であった32道県のNOSAIのうち、実習生の申込・参加があったのは29道県のNOSAIであった。参加人数は、多くの県のNOSAIにおいて1～5名であったが、北海道と千葉県のNOSAIの参加人数が飛びぬけて多く、それぞれ63名と32名であった。実習先としては、自分の出身地の診療所を希望する学生、畜産が盛んで診療頭数が多い地域の診療所を希望する学生、宿泊施設がある診療所を希望する学生が比較的多かった。

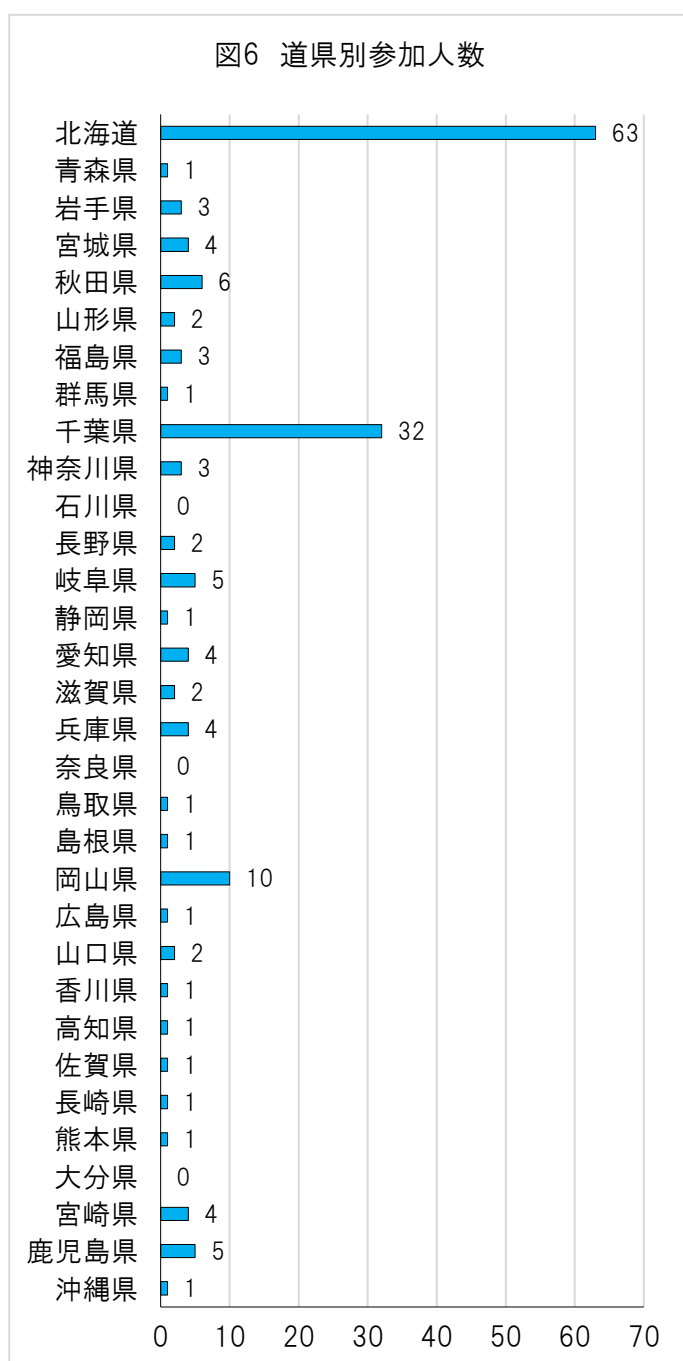
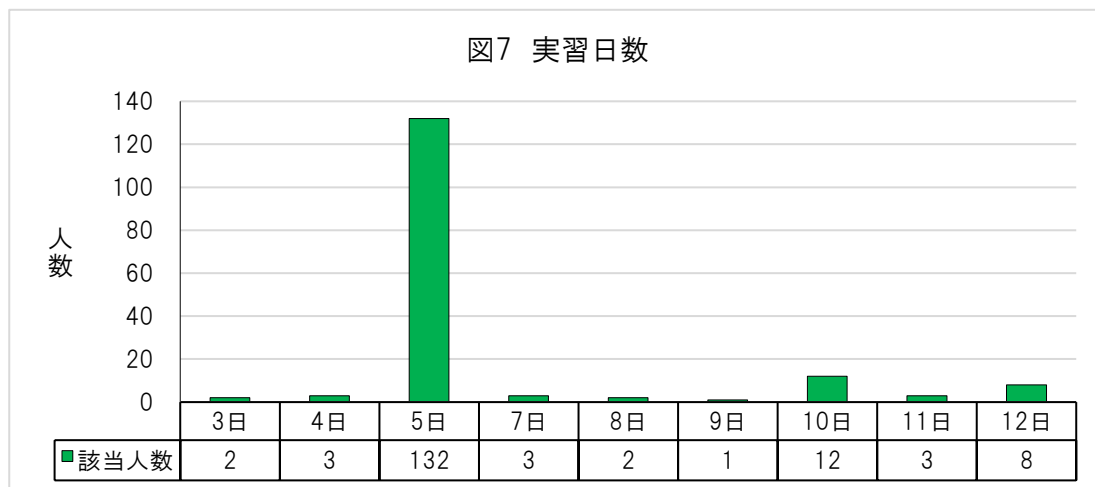


図7 実習日数

実習受入先の NOSAI との会議にて実習日数を平日の 5 日間もしくは 10 日間と設定したことで、今年度は 5 日間実習が 79%と最も多かった。



2) 実習プログラムの改善と開発

① 実習後の学生の意見収集(実習日誌、レポート、実習後アンケート)および整理

本実習の報告として、参加学生に実習日誌の提出と実習終了後アンケートを課している。参加学生166名のうち165名(99%)から提出があった。その結果をここに示す。

図1

実習期間の適切さについて、最も参加人数が多かった5日間実習および次に多かった10日間実習に参加した学生のアンケート結果を抽出した。10日間実習では、ちょうど良いが92%となり、長すぎたと答えた学生が8%(1名)あった。5日間実習では30%の学生が短すぎたと回答していることから、実習内容や学生の意欲によるので一概に言えないが、10日間ぐらいの実習が適切であると考えている学生が多いようである。

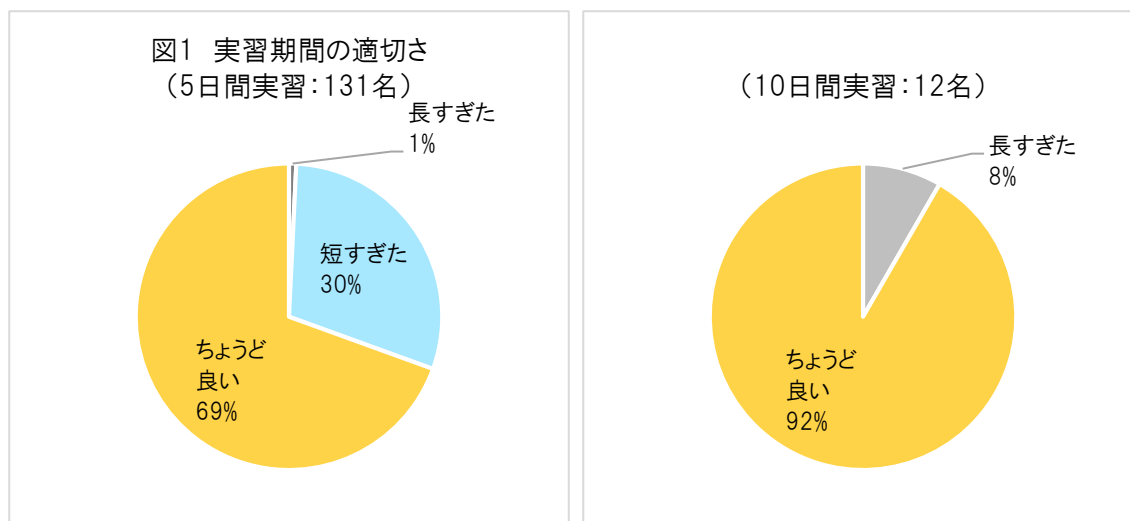


図 2-7

実習期間の適切さ(5日間および10日間実習)について、更に学年別で回答を集計した。10日間実習参加した2年生および4年生各1名(1年生、3年生、6年生からの10日間実習参加はいなかった。)はちょうど良いと回答している。

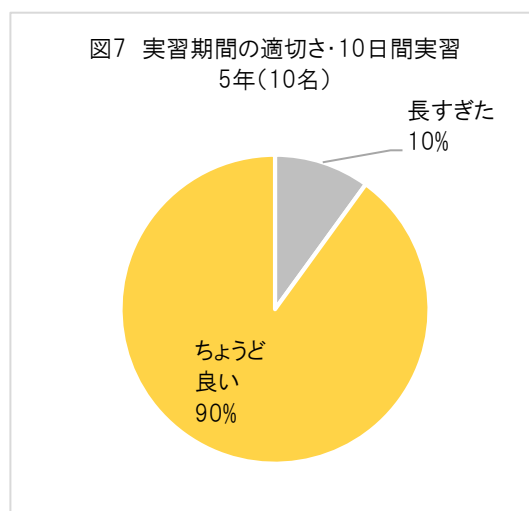
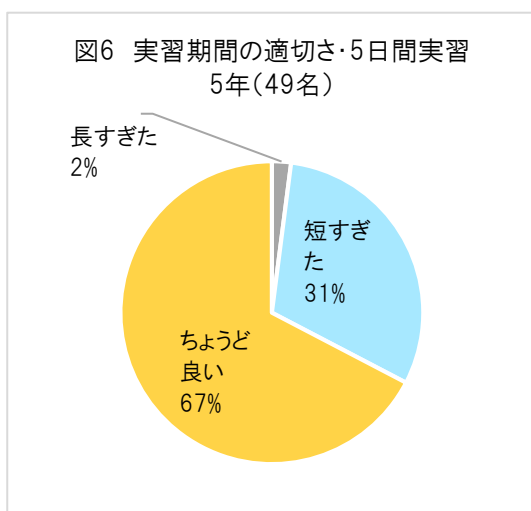
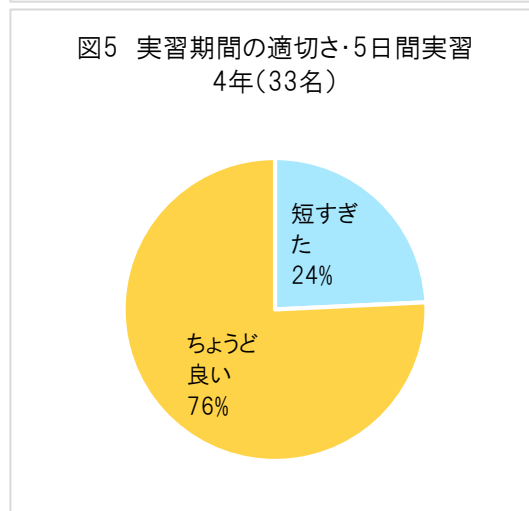
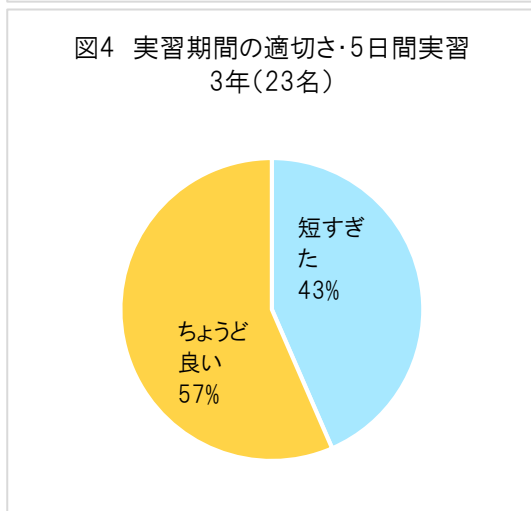
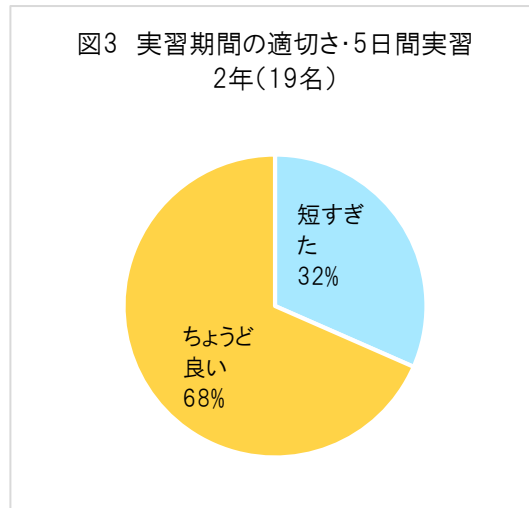
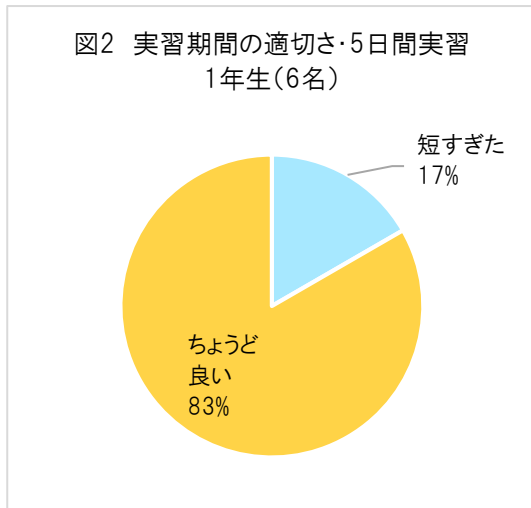


図 8-10

図 8 に示すように 97%の参加学生から実習内容を理解できたとの回答が得られたのは、図 10 に示す実習先の担当獣医師とのコミュニケーションがよく取れたことが要因と考えられる。実習終了後アンケートの感想文(25-26 ページに掲載)にも、学生が「基本的な診療から、農家の経営に関わる実務に関わることまで現場の獣医師から学ぶことができた」、また「担当獣医師から診断や治療方法等について丁寧な説明を受けることができた」等のコメントが多く見られた。実習内容を理解できたこと、獣医師が働く臨床現場を実体験できたこと等が図 9 に示す実習内容に対する満足度の高さを示していると考えられる。

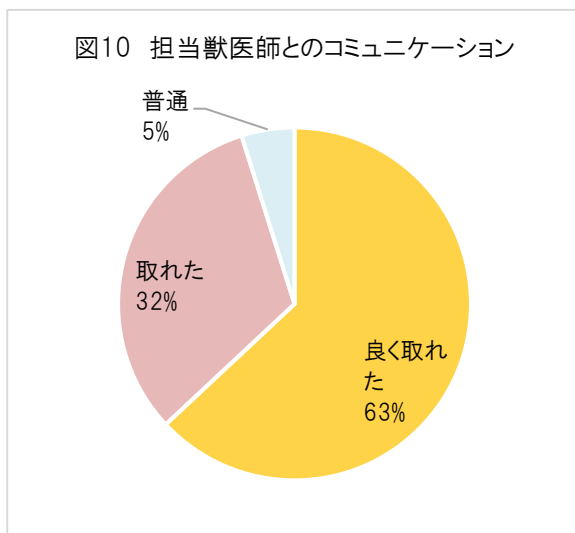
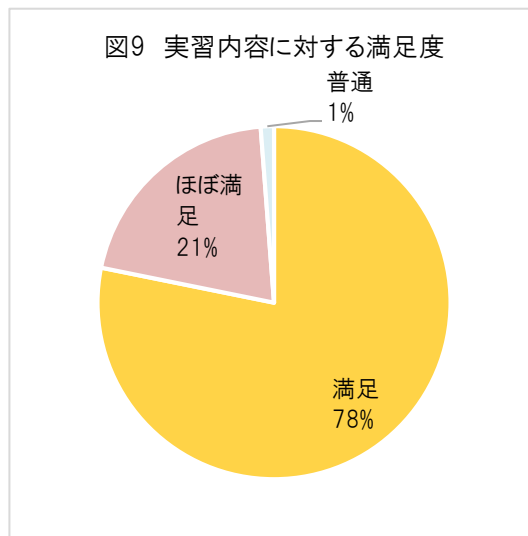
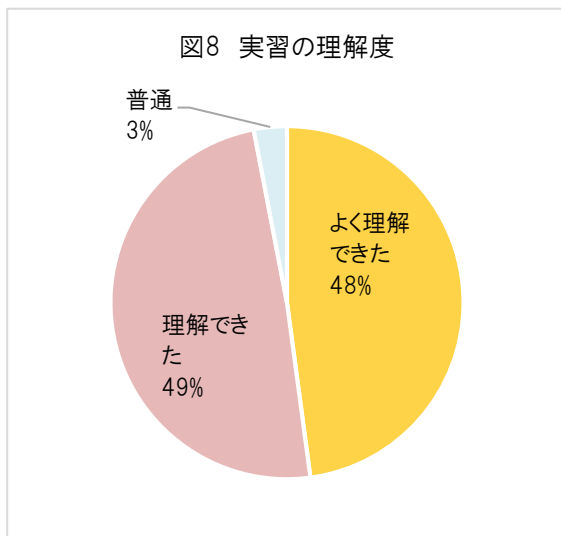
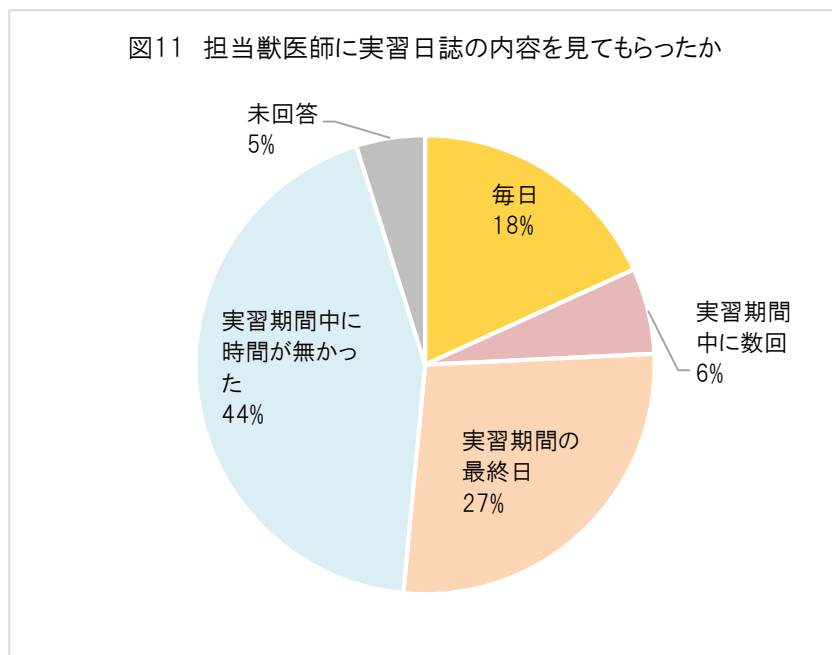


図 11

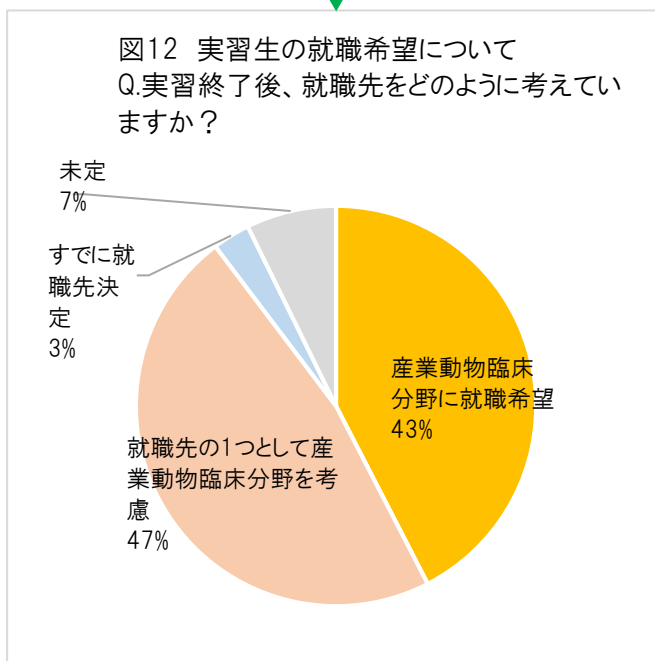
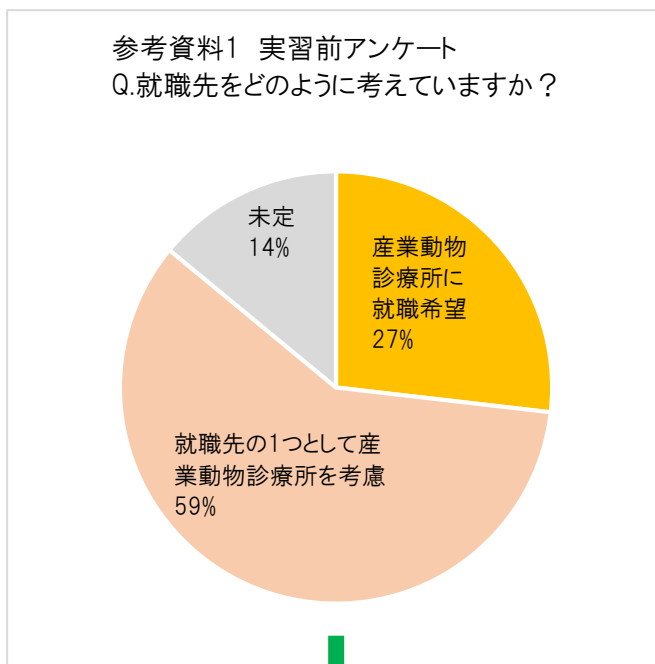
実習では、担当獣医師には日誌を確認することをお願いしてはならず、また学生にも日誌を確認してもらうことを義務付けてはいない。このため、この質問の結果は学生が自主的に日誌を確認してもらったかどうかを示す指標として考えることができる。その結果、参加学生の 51%が実習日誌を 1 回は確認してもらっており、参加学生の高い意欲と担当獣医師の適切な対応を示している。



参考資料1 および図12

将来の進路として産業動物臨床獣医師を志す5年生のみならず獣医学の知識が少ない低学年においても、実習に参加することで臨床現場の獣医師の仕事を肌で感じられ、産業動物臨床分野への理解が深まったことがわかる。終了後アンケート結果から産業動物臨床に就職することをより強く考える学生が43%と増えたことは、体験型実習の有用性を強く示すデータであると考えることができる。

※実習前と実習後に同じ学生(165名)からアンケートを回収した。



②学生および実習現場からの意見をもとに、問題点の洗い出しと実習プログラムの改善および開発

NOSAI と家保との連携業務に関するアンケート集計結果

家保との連携業務を必要に応じて実体験させるプログラムを盛り込んだ本実習では、実習参加学生に NOSAI と家畜保健衛生所の連携業務に関して以下のアンケートを行った。

※実習前と実習終了後に提出されたアンケート(同じ学生 165 名)から収集

実習前アンケート

3. 家畜保健衛生所の仕事内容を知っていますか？(知っている ・ 知らない)

5. 3.で知っていると答えた人は、NOSAI と家畜保健衛生所との間で連携業務が行われていることを知っていますか？(知っている ・ 知らない)

実習参加前の事前アンケートの結果を図 1、2 に示す。家畜保健衛生所の仕事内容を知っていますか？という問いに対して、参加した学生の 59%が知っていると答えた。さらに知っていると答えた人の中で NOSAI と家畜保健衛生所の連携を知っていると答えた人は 43%と少なかった。

図1 実習前アンケート

Q.家畜保健衛生所の仕事内容を知っていますか？

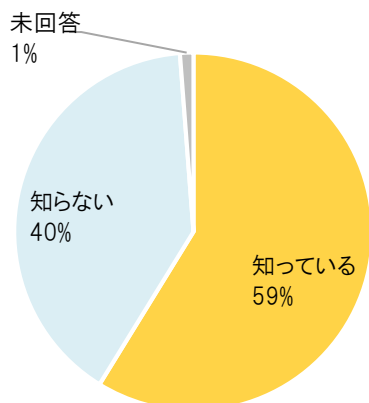
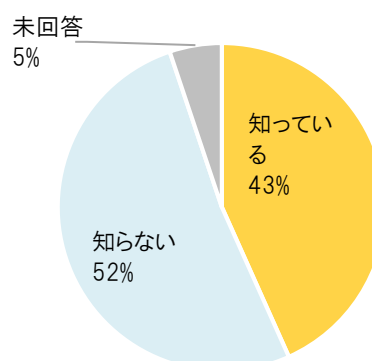


図2 実習前アンケート

Q.「知っている」と回答した人は、NOSAIと家保の間に連携業務が行われていることを知っていますか？



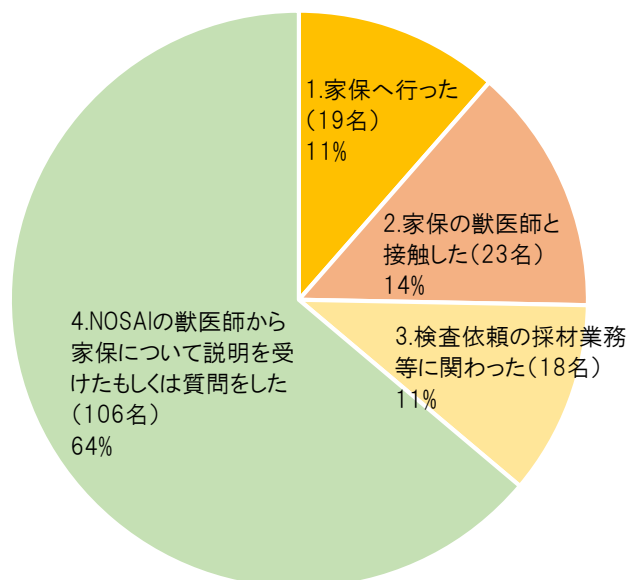
実習終了後アンケート

Q.NOSAIと家畜保健衛生所の連携について該当するものを選んでください。(複数回答可)

- 1 家畜保健衛生所へ行った(施設見学、業務見学、検査材料を持ち込んだ、勉強会等に参加した)
- 2 家畜保健衛生所の担当獣医師に接触する機会があった
- 3 家畜保健衛生所へ検査を依頼するため、または、家畜保健衛生所からの依頼で採材などの業務に立ち会った
- 4 NOSAI の担当獣医師から家畜保健衛生所に関して説明を受けた、または、家畜保健衛生所について質問をした
- 5 該当なし

図3に結果を示す。実習期間に「家畜保健衛生所に行った」、「獣医師と接触した(話をした)」、「検査業務に関わった」などの直接的な接触は15%前後であったが、NOSAIの獣医師から説明を受けた場合を含めると60%以上の多くの学生がNOSAIと家畜保健衛生所との連携を認識できたと考えられる。比較的参加人数が多い道県NOSAI(北海道、千葉県、岡山県)では、充実した検査施設を保有しており、日常的な検査はNOSAIにおいて実施するため、日常的に家畜保健衛生所と接触する機会が少ないことが、23%の家畜保健衛生所との連携について「該当なし」の回答に反映しているように考えられた。

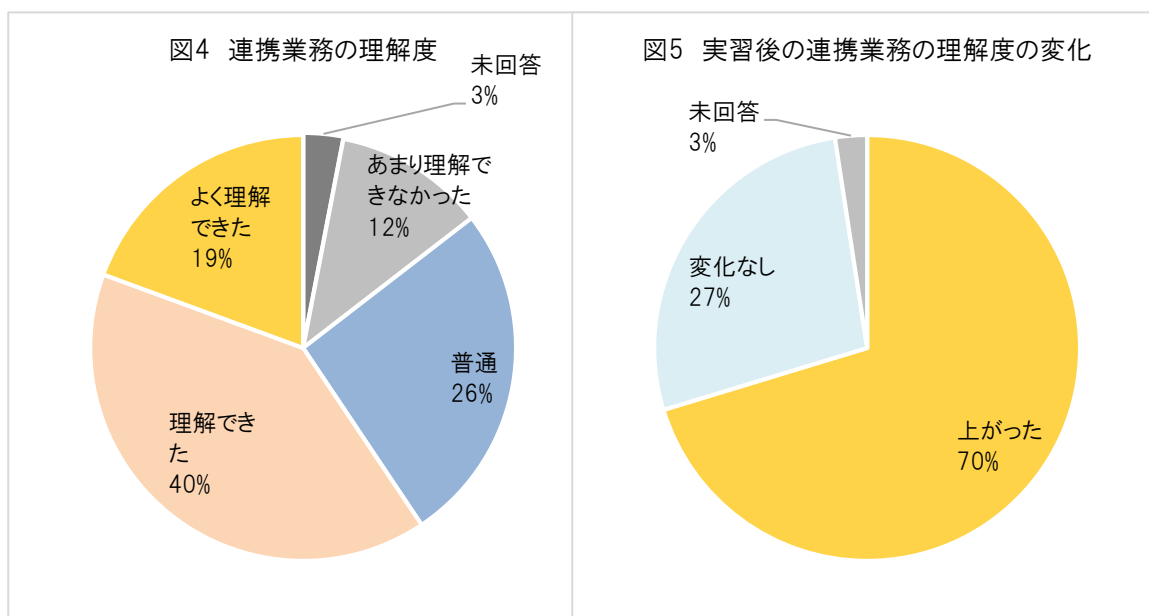
図3 NOSAIと家畜保健衛生所の連携について



NOSAIと家保との連携業務を必要に応じて実体験させるプログラムを盛り込んだ本実習に参加することで、実際に学生が採材、検査、病理解剖、病理組織診断等を体験する機会や、家保の施設見学・業務見学やNOSAIと家保との間で行われる勉強会に参加する等の直接的機会を設けることができた。連携業務の理解度を図4、実習の理解度の変化を図5に示す。

図4で「よく理解できた」または「理解できた」と答えた参加者は59%と多かった理由については、図3に示すように家畜保健衛生所との直接的な接触が比較的多かったことと関連している可能性がある。

図5の実習後の理解度については、実習参加学生の70%が本実習を通してNOSAIと家畜保健衛生所の連携業務について理解度が上がったと回答していることから、本事業はこれまで不十分であった産業動物臨床と家畜衛生との連携を知る機会を提供したと考えられる。しかし、アンケート結果が示すように、さらに多くの学生に産業動物臨床と家畜衛生の連携を周知する必要がある、今後も事業を進めることが重要であると思われる。



実習生の感想(実習終了後アンケートの感想より抜粋)

麻布大学 1 年生 実習地:千葉県

農家さん次第で牛の病状や病気の原因が多様であり、現場では大学で学んだ知識を型にはめすぎず柔軟に考える力が必要だと知りました。また朝にミーティングがあり、病変について先輩の獣医師の方に意見を聞きそれを全体で共有する場が設けられていたため、大学を卒業したばかりの人でも安心して働ける環境だと思いました。

酪農学園大学 3 年生 実習地:鹿児島県

産業動物獣医師になることを進路として考えていなかったが、働いている獣医師の先輩方や農家さんと話し、牛と触れ合っているうちにどんどん魅力を感じるようになった。イメージだけで決めるのではなく、実際に行って体験することの重要性を再認識することが出来た。

日本大学 3 年生 実習地:北海道

患畜が大きいということもあり、女性で大丈夫なのかと心配する面も少しありましたが、女性の先生がパワフルに働いている姿をみて、工夫次第でどうにかなることを知りました。女性だからと大動物臨床を諦めてしまうのは間違っていると感じ、これからもこの実習で学んだことを思い出し産業動物獣医師を目指して勉強に励みたい。

鳥取大学 4 年生 実習地:福島県

現場の獣医療は教科書通りに進むとは限らないということが印象的でした。その一方、コストや時間的な制約がある中で畜主さんにとって最大の利益となる手法を選ぶという非常にクリエイティブな仕事であることも分かりました。

鳥取大学 5 年生 実習地:岡山県

卒業生の先輩が所属しておられて、いろいろと話を聞くことができ参考になりました。実習内容は普段見る機会が少ない産業動物をたくさん見させていただき刺激になりました。

北里大学 5 年生 実習地:北海道

職場の雰囲気も良く、また現場でお会いでき一緒に働くことが出来たらどんなに素敵だろうと思います。女性獣医師さんが生き生き働く姿にも勇気づけられました。教え方も丁寧で、直腸検査など今まであいまいにしていたところも分かったとなるまで教えて、数もこなせてくださいました。

岐阜大学 5 年生 実習地:兵庫県

日常の大学生活で産業動物臨床現場の仕事をイメージすることは難しいですが、今回の実習でイメージをつかむことができ、志望する気持ちが大きくなるとともに、残された大学生活の中でやっておくべきことについても考える良い機会となりました。

麻布大学 5 年生 実習地:岡山県

この度は、5 日間の実習をすることができ、大学では学べないことをたくさん学びました。注射や聴診などの基本的なことから、飼料設計や経済性、廃用などの実務に関わることまで実践的に学ぶことができ、とても有意義な実習となりました。家畜保健衛生所との研修会に参加させていただき、貴重なお話を聞けたことも非常に勉強になりました。また、家畜保健衛生所の方からも、様々なお話を聞くことができました。業務の合間に聴いた、獣医師の先生方からのアドバイスを参考に就職について考えていきたいと思います。

日本大学 5 年生 実習地:宮城県

5 年生になり、産業動物の実習が大学で終了したタイミングで今回のステップアップ編に参加しました、以前 NOSAI 実習に参加したときよりも理解できることや「わかる」と感じたことが多く、大学での実習の復習も含めて産業動物臨床への理解を一層深めることができました。

岩手大学 5 年生 実習地:千葉県

産業動物獣医師を目指していて、今まで他の NOSAI にも実習に行きましたが、女性獣医師にお会いする機会はありませんでした。今回女性獣医師の方が複数名働かれていて、今まで疑問に思っていたことを質問でき、女性ならではの苦労や逆に良い点など現場で活躍されている女性獣医師の生の声を伺えたことは大きな収穫でした。

実習プログラムの改善

終了後アンケートの質問項目を追加し、実習期間中に具体的にどのような指導を受けることができたのか、また理解できた項目についてより具体的に集計できるように改善した。

実習日誌・項目チェックリスト(1)から(5) ※2 ページあります。

実習期間中に、該当した項目について報告をしてください。該当するものがない場合は空欄で結構です。

***必ず毎日下記のチェック項目について確認を行ってください。(体験回数 5 回以上は記入不要)**

(1) 診察

項 目	実習中の体験回数 (最大 5 回)					実習期間中の 体験合計回数	理解できた場合 は○をつける
	1	2	3	4	5		
体温測定							
身体検査(聴診、打診など)							

(2) 検体採取

採血							
糞便採取							
尿採取							

(3) 検査

血液検査							
糞便検査							
尿検査							
乳汁検査(乳房炎)							
歩様・関節の検査							
直腸検査							
超音波検査							

(4) 治療・処置

皮下・筋肉内注射							
留置針装着							
経口投与							
静脈注射							
乳房内注入							
抜糸							
縫合							
ギブス巻き							
分娩介助(難産時)							
子宮脱・膣脱整復							
子宮捻転整復							
局所麻酔							
全身麻酔(鎮静)							
第四胃変位整復術							

5)その他

項 目	実習中の体験回数 (最大 5 回)					実習期間中の 体験合計回数	理解できた場合 は○をつける
	1	2	3	4	5		
牛群検診							
代謝プロファイルテスト(MPT)							
ボディーコンディションスコア(BCS)							
ルーメンフィルスコア(RFS)							
健康モニタリング							
栄養管理							
飼料の特徴と見分け方							
飼料品質管理							
飼料設計							
繁殖管理							
蹄の管理							
ワクチン接種							
駆虫							
消毒マット・踏込消毒槽							
車両消毒							
防虫ネット・防鳥ネット							
ネズミや野生動物の侵入コントロール							
アニマルウェルフェア							
カウコンフォート							
乳検							
帝王切開術							
去勢術							
創傷処置(洗浄、消毒、薬剤塗布など)							

③実習担当者(NOSAI や家畜保健衛生所など)との意見交換

新規実習プログラムを実施した 10 道県 NOSAI の実習担当者との会議で、平成 28 年度実習実績報告を行い、出席した 9 NOSAI から意見等を収集した。

- ① 北海道:スタンダード編における実習期間の適切さ(資料1の図12)について、学年別の内訳はわからないか。参加の多い4、5年生では獣医学の授業が進んでおり物足りなさを、また低学年では実習に対する意欲を間接的に評価できるかもしれない。そのような学生にはさらなる対応を検討したい。
(回答)その通りだと思う。後日、学年別にまとめて提示する。
- ② 協会:スタンダード編における実習期間の適切さ(資料1の図12)について、「3～5日間」を一括りにしているが、「5日間」のみで集計したほうがよいのではないか。「3日間」は短すぎるが、「5日間」はちょうど良いとなるかもしれない。同様に、「7～12日間」も幅がある。
(回答)その通りだと思う。前者では「5日間」に、後者では人数の最も多い「10日間」(資料1の図10)で統一してまとめる。ただ、「3～5日間」は96%が「5日間」であるため、ほぼそのままの結果を反映すると思う。
- ③ 北海道:「学生が担当獣医師とどの程度コミュニケーションをとれたか」と「学生が担当獣医師に実習日誌の内容を確認してもらったか」の結果(資料1の図16、17)に乖離があるように思うが、現場では今後どのように改善していけばよいか。
(回答)前者については現場や移動中での学生と担当獣医師のやりとりが評価の主体であり、後者は学生または担当獣医師の自発的な行動であることが影響していると思う。ただ、後者が自発的にもかかわらずスタンダード編では52%、ステップアップ編では59%という結果は大いに評価できると思う。また、後者については診療後に議論する時間を少しでも増やすことができればより充実したものになるかもしれない。しかし、学生に日誌の確認を義務付けると担当獣医師の負担が増えかねない。
- ④ (③を受けて)北海道:北海道 NOSAI の新規研修では一人一人が6週間毎日日誌を書き、何か疑問があれば研修スタッフがコメントを書くということをルーチンに行っている。
(回答)ステップアップ編については学生の日誌を担当獣医師に確認してもらうという形で進めていく。ステップアップ編の手引きにもその旨を記載する。
- ⑤ 宮城:実際に NOSAI 夏期臨床実習を受けた学生における産業動物関連への就職率ほどの程度か。
(回答)本事業が就職に直結しているかは興味深いところで、就職先としては NOSAI が中心であるが、家畜保健衛生所などの就職も増加している。卒業生で NOSAI 夏期臨床実習に参加した学生のうち平成 26 年度は 24%が、平成 27 年度は 31%が、平成 28 年度は 39%が産業動物臨床(家畜保健衛生所を除く)に就職し、年々増加している。この数値には日獣大も含まれており、今後は日獣大の割合が減ることで NOSAI 夏期臨床実習に参加した学生のうちかなりの割合が産業動物臨床に就職すると思われる。後日、詳細はデータをまとめて提示する。
- ⑥ (⑤を受けて)島根:一度小動物臨床へ就職した獣医師の中には、NOSAI 夏期臨床実習

に参加していたことで産業動物臨床へ再就職した事例もあり、やはり本事業の効果はあると思う。

- ⑦ 北海道:独自のアンケート結果から、低学年のうちからNOSAIをもっと広報してほしい、という要望が学生にあることがわかった。そうであれば、各大学でNOSAIについて知ってもらう機会を十分に設けてもらえればさらなる理解が得られるのではないか。

(回答)その通りだと思う。加えて、低学年向けの「early exposure 実習」によって学生の関心を産業動物へ誘導していくことも考えていかなければならない。

- ⑧ 北海道:北海道ではNOSAIの採用試験時にアンケートを実施しており、その中で産業動物獣医師を志したきっかけとして圧倒的に多いのは臨床実習だが、その次に多かったのは大学の教員が講義の中でNOSAIの業務について説明したことであった。つまり、大学の教員の影響力は非常に大きいと思う。入学前から就職の方向性を決めている学生もいるが、産業動物を志望する時期はバラバラであり、何かしらのきっかけがあれば産業動物へ関心を持ってもらえる。したがって、NOSAIとしては大学の授業の中で1コマでも説明の機会があればありがたい。

関連会議等

1) 第1～3回コーディネーター打合せ会議

協力校3校(酪農学園大学、北里大学、鹿児島大学)のコーディネーターとの会議にて実習プログラム等について意見交換を行った。

①第1回コーディネーター打合せ会議

日時:平成28年6月16日(木)14時～16時

場所:東京大学農学部フードサイエンス棟5階セミナー室

出席者:岐阜大学:北川 均、小森 成一、大場 恵典、村上 章

酪農学園大学:田島 誉士

北里大学:菊池 元宏

鹿児島大学:窪田 力

オブザーバー:東京大学 杉浦 勝明、綱嶋るみ(分野1)

1. 開会

2. 挨拶

3. 資料説明および意見交換

1) 平成28年度本事業分野2担当メンバーについて(資料1)

2) 平成28年度業務計画について(資料2)

3) NOSAIと県庁への訪問(協力要請)

4) 平成28年度NOSAI夏期臨床実習中間報告(資料3)※会議当日配布予定

5) 関連フォーラム開催について

平成28年度獣医師会年次大会(石川県金沢市)の7月企画会議で参加検討

4. その他

1) 次回の打合せ会議の日程調整

平成 28 年度 第 1 回コーディネーター会議 議事録

1. 開会

2. 挨拶

岐阜大学（小森）から協力校（酪農学園大学、北里大学、鹿児島大学）のコーディネーターに対してこれまでの協力への感謝と引き続き協力の依頼があった。

3. 資料説明および意見交換

1) 平成 28 年度本事業分野 2 担当メンバーについて（資料 1）

岐阜大学（小森）から、本会議に出席されたメンバーが紹介された。また、本年度事業メンバーについて、協力校 3 校のメンバー（連携コーディネーターと学部長）を確認し、一部修正の上、これを承認した。修正については下記の 3 点である。

- ・酪農学園大学：獣医学群長・学部長（誤）→ 獣医学類長・学部長（正）
- ・北里大学：獣医学部（誤）→ 獣医学部長（正）
- ・鹿児島大学：共同獣医学部長：望月雅美（誤）→ 宮本 篤（正）

また、昨年と同様、分野 1 事業「公衆衛生行政等における全国の実習システムの構築」の基幹校である東京大学をオブザーバーとして本コーディネーター会議に迎えることを説明した。

2) 平成 28 年度業務計画書について（資料 2）

岐阜大学（大場）から、事業目的は昨年度と同様である旨が伝えられ、今年度の事業計画書に基づき、公共獣医事に関する実習プログラムの実施と実習プログラムの改善などを中心に業務内容が説明された。昨年度との大きな違いは、昨年度は実習プログラムが主要 10NOSAI で実施（参加人数 120 名）されたが、今年度は全国の NOSAI で実施（参加人数達成目標 160 名）することである。なお、今年度は委託事業の最終年度であることから、3 年間の実績を整理し最終報告書を作成し、本事業を総括する。

3) NOSAI と県庁への訪問（協力要請）について

岐阜大学（北川、小森）から実習受入機関への訪問、あるいは訪問予定についての報告があった。昨年度は群馬県、福島県、岩手県、静岡県、沖縄県の 5 県、今年度はすでに滋賀県、香川県、愛媛県、高知県の 4 県を訪問して本事業の協力を要請した。また、6 月中に山口県と長崎県を訪問予定である。

4) 平成 28 年度 NOSAI 夏期臨床実習中間報告（資料 3）

岐阜大学（小森）が、本年度の NOSAI 夏期臨床実習の申込状況（6/13 現在）の中間報告をした。ステップアップ編への申込人数 40 名に対して、受入決定人数は 40 名であり、申込学生全員が受け入れられた。受入決定人数は昨年度に比べて 5 名増えた。ステップアップ編実習受入可能 10NOSAI のうち、今年度の申込および受入決定先 NOSAI は 8NOSAI（昨年度 5NOSAI）であり、3NOSAI 増えた。一方、スタンダード編の申込人数は 119 名であった。昨年度の申込人数 157 名に比べて 38 名の減少であった。この原因として日獣大の 5 年生の申込人数の減少が考えられた。昨年度の日獣大 5 年生のスタンダード申込人数は 47 名（ステップアップ 3 名）、今年度の申込人数は 14 名（ステップアップ 3 名）であり、36 名の減少であった。昨年度まで日獣大の 5 年生の産業動物臨床関連実習（必須単位）の受け皿の一部を本事業の NOSAI 夏期臨床実習が担っていたが、次年度から始まる参加型臨床実習に向けて、日獣大は 5 年生全員分の受入 NOSAI を確保したと考えられた。その結果、今年度のステップアップ編とスタンダード編の申込人数の総計は 159 名で、昨年度の 192 名に比べて 33 名の減少となった。今後、ステップアップ編とスタンダード編にいくらかの追加申込みがあると考えられるが、最終的な参加人数は目標人数（160 名）と同程度か少し下回ると予想している。

5) 関連フォーラムについて（資料 4）

本事業の今年度の関連フォーラムは、分野 1 および分野 2 合同で、平成 28 年度日本獣医師会年次大会（平成 29 年 2 月、石川県金沢市）での開催を検討している。この大会でのフォーラム開催の可否は、7 月に予定されている当該大会企画運営会議において決定される。このため、この企画運営会議に本事業関連フォーラムの企画案（資料 4）を提案していただくように、当該公衆衛生獣医学会および産業動物獣医学会関係者に依頼した。もし、当該大会での本事業関連フォーラム開催ができない場合は、昨年度と同様に東京大学農学部内での開催を検討することとした。

4. その他（意見交換）

1) 分野 1 の実施状況について（東京大学：杉浦先生）

分野 1 は公衆衛生行政等における全国的実習システムの構築を担っており、協力校とともに実習受入機関（国、都道府県、政令指定都市、中核市の研究機関、保健所、家畜保健衛生所、と畜場等）の協力を得て、実践的な実習プログラムを開発・提供している。昨年度の協力校は 12 校であったが、今年度は獣医系全 16 校となる。今夏

の募集人数 189 名に対して一次募集の応募人数は 123 名であり、選考後、受入決定人数は 100 名弱になる。なお、この選考から外れた学生は引き続き二次、三次募集に応募することができる。また、来春 80 名程度の募集を予定している。

2) 共用試験、および臨床実習ガイドラインと本事業との関連について

岐阜大学（大場）から、実習現場（NOSAI）において共用試験と臨床実習のガイドラインの捉え方に混乱が生じていることが説明され、一定の指針を提示することができるかどうかの意見が交わされたが、明確な結論は出なかった。各大学からガイドラインが提示されているが、複数の大学の学生を受入れる NOSAI において、学生の所属大学別にそのガイドラインを対応させることは困難である。このため、現時点では農林水産省獣医事審議会計画部会により取りまとめられたガイドラインに準ずることを提案した。また、共用試験の実施時期が各大学によって異なり、NOSAI での実習時に合格者と未受験者が同時に実習する可能性がある。対策の提案には至らなかったが、申込書に共用試験の合格、未受験等の記載欄を設け、その情報を NOSAI に提供することとした。

3) 次年度以降の事業について

岐阜大学（北川）から、次年度からの事業として、アドバンス実習を主体に即戦力となる獣医師の養成を目的とした全国の実習システムの構築を考えている旨の説明があった。なお、これまでに構築された実習システムを基盤とし、即戦力養成プログラムを追加、整備することとする。

4) 次回コーディネーター会議の日程

11 月 15 日（火）を開催予定日とした。

以上

②第2回コーディネーター打合せ会議

日時:平成28年11月15日(火)14時～16時

場所:東京大学農学部フードサイエンス棟5階セミナー室

出席者:岐阜大学:北川 均、村上 章

北里大学:菊池 元宏

鹿児島大学:窪田 力

オブザーバー:東京大学 杉浦 勝明、綱嶋るみ(分野1)

1. 開会
2. 挨拶
3. 資料説明および意見交換
 - 1) 平成28年度NOSAI夏期臨床実習実績(資料1)
 - 2) 平成28年度シンポジウムについて
4. その他

平成28年度第2回コーディネーター会議 議事録

1. 開会
2. 挨拶

岐阜大学(北川)が、今年度夏期臨床実習が無事に終了した旨を報告し、連携コーディネーターの協力に謝意を述べた。

3. 資料説明および意見交換

1) 平成28年度NOSAI夏期臨床実習の実績報告

岐阜大学(北川)が、今年度の夏期臨床実習の実績について、添付資料(平成28年度NOSAI夏期臨床実習実績報告)に基づいて説明した。

① 申込みおよび参加人数等の状況

今年度のNOSAI夏期臨床実習のスタンダード編には121人、ステップアップ編には45人の学生が参加し、合わせて166人の参加となった。昨年度に比べてスタンダード編の参加者は18人減少し、これは今年度の日獣大5年生の参加者が大きく減少したことが原因と考えられるが、他大学からの参加者が増えたことでその影響は予想よりも小さかった。さらに、ステップアップ編の参加者は10人増加したため、昨年度に比べて全体の参加者は8名の減少にとどまり、目標の参加人数(160名)を上回る結果となった。本年度のスタンダード編には127人の申し込みがあったが、実際の参加者は6人少ない121人であっ

た。この差の理由としては昨年度と同様に、①実習受け入れ先との実習日程調整が折り合わなかったこと、②同時に申し込んだステップアップ編への参加が決定したために参加を辞退したことが挙げられた。なお、ステップアップ編においては申込者と参加者が同数であった。実習生の男女比は4対6でこれまでと同様に女性が多く、男性1人のみの6年生を除き1～5年生すべてで女性の参加が男性よりも多かった。これは女性が実習により積極的に参加する傾向にあるためと考えられるが、その背景の一つとして女性は将来の就職競争により不安を感じているようであった。学年別の参加人数は、スタンダード編では4年生が40人と最も多く、昨年度最多の5年生は29人、残りを1～3年生が占めたが、低学年の参加者が増加してきた。一方、ステップアップ編では例年通り5年生がほとんどを占め(42人)、4年生と6年生が各1人であったが、本年度ではさらに博士課程2年の参加者が1人あった。獣医系16大学のうち実習申込者および参加者は、スタンダード編には14大学、ステップアップ編には13大学からあった。スタンダード編には今年度30道県のNOSAIから募集があったが、そのうち3県のNOSAIには申込・参加がなかった。実習先の選択としては、学生の出身地や診療所の診療頭数だけでなく宿泊施設の有無が比較的影響していた。本年度のステップアップ編は10道県のNOSAIから募集され、参加者のあったNOSAIは8道県で昨年度よりも3県増加した。

② 終了後アンケートの結果

今年度の実習終了後アンケートの提出率はスタンダード編で100%、ステップアップ編で98%を達成し、アンケート提出はほぼ定着したと言える。実習終了後に提出されたアンケートの結果をまとめた。実習期間の適切さについては、「ちょうど良い」がスタンダード編の3～5日間実習および7～12日間実習で7割と9割、ステップアップ編の5日実習および9～12日間実習で7割と8割であった。実習の理解度および満足度については、スタンダード編またはステップアップ編に参加した95%以上の学生から「(良く)理解できた」「(ほぼ)満足した」との回答が得られた。担当獣医師とのコミュニケーションについては、スタンダード編とステップアップ編においてともに90%以上の学生から「(良く)取れた」との回答を得ることができた。担当獣医師に実習内容をチェックしてもらったかとの問いに対しては、何らかのタイミングでチェックしてもらったとの回答が、スタンダード編では約50%と昨年度よりも1.5倍増加し、ステップアップ編では昨年度と同じ59%を示した。実習前後の将来希望する就職先に関する質問において、産業動物臨床分野への就職を希望または考慮する学生の割合は、スタンダード編とステップアップ編でともに実習前から高く(81%と98%)、実習後ではさらに増加した(86%と100%)。このうち産業動物診療所に就職を希望する学生の割合は実習前後で約1.5倍増加していた。NOSAI 夏期臨床実習中における家畜保健衛生所との連携業務の実施・体験状況

に関するアンケート結果は、分析途中であるとのコメントがあった。

2) 平成 28 年度シンポジウム開催案

岐阜大学（北川）が、今年度末（3月）開催予定のシンポジウムについて各コーディネーターに確認した。なお、昨年と同様、分野 1、2 の共同開催の旨が伝えられた。

① 開催日時および場所

日時：平成 28 年 3 月 6 日（月）15:00～17:15

場所：東京大学

* この直前（13:30～）に第 3 回コーディネーター会議を開催する。

→各コーディネーターから特に意見がなかったため、この日程で調整を進めることとした。

② プログラムと演者

「日本の次世代獣医師を育成するために Part III」をテーマに、現在、分野 2 は以下のプログラム（演者）を予定している；

- ・ 平成 28 年度 本事業実績報告（岐阜大学（大場恵典））
- ・ NOSAI における獣医学生臨床実習の現状（未決定）

4. その他（意見交換）

岐阜大学（北川）から、「家畜保健衛生所との連携を考える上でスタンダード編に参加する学生に事前アンケートを実施したところ、結果は分析中だが、約 45%が家畜保健衛生所の業務内容を知らず、知っているとは回答した約 55%の学生でも半数が家畜保健衛生所と NOSAI が連携していることを知らなかった。」との発言があった。これを受け、以下に本会議出席者間で発言されたことの要点を記す。

- ・ 低学年と高学年の違い。
- ・ 実習プログラムに家畜保健衛生所を組み入れる。
- ・ NOSAI に就職したい学生は公務員に対する関心が低い。
- ・ 実習後に評価が変化し、関心が高まれば意義はある。
- ・ 家畜保健衛生所の職員にも何らかの形で診療に携わってもらったり、臨床実習を実施してもらおう。

また、鹿児島大学（窪田）から、「NOSAI 臨床実習において学生にどこまで診療に介入させるのか。」との発言があり、鹿児島大学では 3 年前に口蹄疫事業で相談した指針を基に鹿児島大学のガイドラインを作成して NOSAI に配布しているとのことであった。

最後に岐阜大学（北川）から、本事業が次年度以降継続するかどうかはまだ不明であるが、継続されればアドバンス実習を主体にシステムを構築し、低学年の参加者が増加してきていることへの対応は今後の検討課題である旨の説明があった。

以上

③第3回コーディネーター打合せ会議

日時:平成29年3月6日(月)13時~14時30分

場所:東京大学農学部フードサイエンス棟5階セミナー室

出席者:

岐阜大学:北川 均、大場 恵典、村上 章

酪農学園大学:田島 誉士

北里大学:菊池 元宏

鹿児島大学:乙丸 孝之介

1. 開会

2. 挨拶

3. 資料説明および意見交換

1)平成26-28年度事業のまとめ(資料1)

2)平成29年度NOSAI夏期臨床実習実施要綱について(資料2)

3)平成29年度NOSAI夏期臨床実習運営スケジュールについて(資料3)

4. その他

平成29年度以降の新規事業計画(案)

平成27年度第3回コーディネーター打合せ会議議事録

1. 開会

2. 挨拶

岐阜大学(北川)から、本事業3年間の協力への感謝とともに、引き続き協力を依頼した。

3. 資料説明および意見交換

1)平成26-28年度事業のまとめ(資料1)

岐阜大学(大場)が平成26-28年度までの夏期臨床実習実績について報告した。本事業は、産業動物臨床と家畜保健衛生所に係る業務を連携・融合させた全国の実習プログラムを構築することを目的とする。

① 事業スケジュール

平成 26 年度は、本事業の開始が 10 月からであったため、実習プログラム開発の準備期間とした。平成 27 年度は主要 10 NOSAI とその関連家畜保健衛生所において臨床実習を行った。平成 28 年度は全国の NOSAI とその関連家畜保健衛生所に拡大して臨床実習を行った。

② 申込および参加人数

平成 26 年度は準備期間であるため、本事業としての募集は行わなかった。平成 27 年度は 128 名の申込と 120 名の参加があり、平成 28 年度はそれぞれ 172、166 名であった。申込および参加人数は事業実施 NOSAI の拡大により増加した。また、各年度の申込および参加人数の差は、NOSAI と実習期日の調整がつかなかったことによるところが大きいと思われる。ただ、参加率(参加人数/申込人数)は平成 27 年度の 94%から平成 28 年度には 97%に増加した。

③ 大学別参加人数

平成 27 および 28 年度ともにほぼ 16 大学すべてから学生の参加があった。平成 28 年度の参加人数は事業規模の拡大により増加傾向であった。参加人数の約 35%を国公立大が、約 65%を私立大が占めたが、大学の学生数を考慮すると両者に大差はないと考えられる。

④ 学年別参加人数

平成 27 および 28 年度ともに全学年からの参加があり、5 年生が最も多かった。平成 28 年度は事業規模の拡大に伴い全学年で参加人数が増加し、特に低学年でその傾向が強かった。

⑤ 実習終了後のアンケート提出率および実習満足度

アンケート提出率は平成 27 および 28 年度ともに 99%であり、ほぼ定着したと考えられる。実習満足度は、アンケート結果より平成 27 年度の 97%から平成 28 年度には 99%に増加した。

⑥ 本事業における家畜保健衛生所との連携業務

NOSAI と家畜保健衛生所の活動の連携が家畜衛生の重要な部分であるにもかかわらず、参加学生の約 40～50%がそのことを知らず、本事業はその機会を提供できる場になったと言える。しかし、本事業を通じて多くの学生が両者の連携を認識でき、理解度が向上したと考えられる一方で、NOSAI の獣医師との直接的に接することができなかった学生が 64%であったことや理解度がまだ十分でなかったことは今後の課題である。

⑦ 道府県別受入人数

平成 27 および 28 年度ともに北海道が一番多く、次いで千葉、岡山が続いた。今年度、北海道の受入人数が大きく増加したのは、募集期間を延長したためと思われる。

以上①～⑦について資料に基づいて事業実績を総括し、まだ不十分な点や課題(低学年への対応や家畜保健衛生所との連携業務の理解など)がみられるものの、この 3 年間で本事業の目的はある程度達成された旨が報告された。

2) 平成 29 年度 NOSAI 夏期臨床実習実施要綱について(資料 2)

今年度との変更点はない。今年度から実習開始は原則月曜日、終了日は金曜日として行ったが、特に混乱や問題はなく、実習期間を効率良く設定することができたため、今後もこの原則を継続していくことが確認された。

3) 平成 29 年度 NOSAI 夏期臨床実習運営スケジュールについて(資料 3)

次年度も今年度と同様のスケジュールで実施予定である。

4. その他

1) 平成 29 年度以降の新規事業計画(案)

国民の健康的な生活を守るために動物衛生および食品の安全性を確保するだけでなく、人の健康を保障する意味で国際的な防疫体制を強化する一方で、獣医学教育の高度化を図ることにより農畜産業における国際競争力を高めることは極めて重要であり、産業動物・公衆衛生分野においてこれらのニーズに対応した獣医師の養成がますます求められることになる。したがって、新規事業計画では、高学年次を対象とし、産業動物・公衆衛生における高度獣医療技術の修得により、これまで以上に即戦力として活躍できる獣医師を育成するための先導的かつ実践的なアドバンス教育プログラムの開発・構築を目指すものである。

2) 意見交換

① NOSAI と家畜保健衛生所の連携について

実習期間が基本的に 5 日間であるため、家畜保健衛生所の獣医師との接触は物理的に難しく、むしろ参加学生の約 30%にその機会があったことは想定以上であったものの、今後の課題である。また、NOSAI が多くの検査を自施設で行うようになってきていることや家畜保健衛生所でなく検査施設へ提出することが増えていることも、家畜保健衛生所の獣医師との接触機会が減る要因と思われる。

② 報告書に、実習生の日誌、レポートおよびアンケート内容を抜粋、記載することについて

学生の記載事項をそのまま報告書にまとめると、間違った語句や文章によっては実習内容の理解度に誤解を受ける可能性がある。日誌を担当獣医師に毎日確認してもらい体制をつくることができれば、いくらか解消すると思われる。また、実習終了後に各大学による日誌の確認と指導を徹底していくことが望ましい。しかし、実習終了後に日誌を回収する NOSAI もあり、柔軟な対応は必要である。

③ 本事業と共用試験合否の扱いについて

可能な限り早急に対応を考える。

以上

全国獣医系大学関係代表者協議会における事業説明

①第 105 回全国大学獣医学関係代表者協議会

1. 日時 平成 28 年 9 月 5 日(日) 13:00～15:30
2. 場所 東京大学農学部 1 号館 8 番教室 東京都文京区弥生 1-1-1
3. 議題
 - I. 来賓挨拶
 - II. 第 104 回全国大学獣医学関係代表者協議会議事録の承認
 - III. 報告事項
 - 1) 国公立大学獣医学協議会
 - 2) 私立獣医科大学協会協議会
 - IV. 協議事項
 - 1) 獣医学教育評価について
 - 2) 共通テキスト編集委員会
 - 3) コアカリキュラム検討小委員会
 - 4) 動物診療施設小委員会
 - 5) 参加型臨床実習検討委員会
 - 6) 全国共同実習事業
 - 7) 広報委員会
 - 8) 共用試験センター
 - 9) 獣医学国際化検討委員会
 - 10) その他

②第 106 回全国大学獣医学関係代表者協議会・事業説明資料

1. 日時 平成 29 年 3 月 27 日(月) 13:00～15:30
2. 場所 東京大学農学部 3 号館 4 階会議室 東京都文京区弥生 1-1-1
3. 議題
 - I. 来賓挨拶
 - II. 第 105 回全国大学獣医学関係代表者協議会議事録の承認
 - III. 報告事項
 - 1) 国公立大学獣医学協議会報告
 - 2) 私立獣医科大学協会協議会報告
 - 3) その他
 - IV. 協議事項
 - 1) コアカリキュラム検討委員会
 - 2) 共通テキスト編集委員会
 - 3) 動物診療施設委員会
 - 4) 参加型臨床実習検討委員会
 - 5) 全国共同実習事業
 - 6) 広報委員会
 - 7) 獣医学国際化検討委員会
 - 8) 共用試験センター

3) 実習担当者会議・議事次第

家畜衛生分野と産業動物診療分野を連携させた実習プログラムを実施した 10 NOSAI のうち 9 NOSAI の実習担当者が会議に出席し、以下の議事次第について意見交換等を行った。

日時:平成 29 年 1 月 12 日(木)14:00～17:30

場所:全国農業共済会館 6 階 会議室

出席者

(全国農業共済協会)

企画研修部 次長 横尾 彰、主任 下田 崇

(農業共済組合連合会)

北海道農業共済組合連合会 家畜部 部長 廣田 和久

北海道農業共済組合連合会 家畜部 家畜事業グループ 課長補佐 塚田 康祐

宮城県農業共済組合 家畜部家畜課 課長補佐 河野 充彦

千葉県農業共済組合 家畜部 次長 山本 弘武

兵庫県農業共済組合連合会 家畜部 部長 小田 修一

兵庫県農業共済組合連合会 家畜部臨床研修課長 宮本 孝明

島根県農業共済組合連合会 事業部 家畜課 家畜課長 中倉 亨

岡山県農業共済組合連合会 家畜部長 植月 義友

広島県農業共済組合 家畜部 課長 前田 陽平

宮崎県農業共済組合連合会 生産獣医療センター 副所長 野村 祐資

鹿児島県農業共済組合連合会 家畜部 家畜部長 和田 正治

(岐阜大学)

教授 北川 均、教授 大場 恵典、事業補助員 村上 章

1. 開会

上記の通り出席があり、岐阜大学(大場)は開会を宣した後、議事次第に従い進行する旨が伝えられた。今回はメンバーである 10 道県の NOSAI のうち山形県が欠席であった。

2. 挨拶

全国農業共済協会(横尾次長)から、来年度から実施される参加型臨床実習について獣医系大学と各 NOSAI は一緒に取り組んでいくことが必要になるが、NOSAI 夏期臨床実習についてもこれまでと同様に両者の協力のもと十分な臨床実習を通じて学生に NOSAI の実態を理解してもらい、産業動物臨床を担う獣医師の確保に結びつけていく旨が伝えられた。

岐阜大学(北川)が今年度本事業への協力を感謝した。今年度は本事業の最終年度であることから、3年間の実績を整理した最終報告書の作成にあたり各 NOSAI に協力の依頼があった。また、来年度から参加型臨床実

習が実施されるが、今後も本事業を継続していく予定であるため、各 NOSAI に引き続きご支援をお願いした。

3. 資料説明および意見交換

1) 平成 28 年度 NOSAI 夏期臨床実習実績(資料 1)

岐阜大学(大場)が、今年度の NOSAI 夏期臨床実習について最終報告した。その後、報告内容等に関する質問を参加 NOSAI から受け、それに事務局が回答した。

主な意見、質問とそれに対する回答

- ⑨ 北海道:スタンダード編における実習期間の適切さ(資料 1 の図 12)について、学年別での内訳はわからないか。参加の多い 4、5 年生では獣医学の授業が進んでおり物足りなさを、また低学年では実習に対する意欲を間接的に評価できるかもしれない。そのような学生にはさらなる対応を検討したい。
(回答)その通りだと思う。後日、学年別にまとめて提示する。
- ⑩ 協会:スタンダード編における実習期間の適切さ(資料 1 の図 12)について、「3～5 日間」を一括りにしているが、「5 日間」のみで集計したほうがよいのではないか。「3 日間」は短すぎるが、「5 日間」はちょうど良いとなるかもしれない。同様に、「7～12 日間」も幅がある。
(回答)その通りだと思う。前者では「5 日間」に、後者では人数の最も多い「10 日間」(資料 1 の図 10)で統一してまとめる。ただ、「3～5 日間」は 96%が「5 日間」であるため、ほぼそのままの結果を反映すると思う。
- ⑪ 北海道:「学生が担当獣医師とどの程度コミュニケーションをとれたか」と「学生が担当獣医師に実習日誌の内容を確認してもらったか」の結果(資料 1 の図 16、17)に乖離があるように思うが、現場では今後どのように改善していけばよいか。
(回答)前者については現場や移動中での学生と担当獣医師のやりとりが評価の主体であり、後者は学生または担当獣医師の自発的な行動であることが影響していると思う。ただ、後者が自発的にもかかわらずスタンダード編では 52%、ステップアップ編では 59%という結果は大いに評価できると思う。また、後者については診療後に議論する時間を少しでも増やすことができればより充実したものになるかもしれない。しかし、学生に日誌の確認を義務付けると担当獣医師の負担が増えかねない。
- ⑫ (③を受けて)北海道:北海道 NOSAI の新規研修では一人一人が6週間毎日日誌を書き、何か疑問があれば研修スタッフがコメントを書くということをルーチンに行っている。
(回答)ステップアップ編については学生の日誌を担当獣医師に確認してもらうという形で進めていく。ステップアップ編の手引きにもその旨を記載する。
- ⑬ 宮城:実際に NOSAI 夏期臨床実習を受けた学生における産業動物関連への就職率ほどの程度か。
(回答)本事業が就職に直結しているかは興味深いところで、就職先としては NOSAI が中心であるが、家畜保健衛生所などの就職も増加している。卒業生で NOSAI 夏期臨床実習に参加した学生のうち平成 26 年度は 24%が、平成 27 年度は 31%が、平成 28 年度は 39%が産業動物臨床(家畜保健衛生所を除く)に就職し、年々増加している。この数値には日獣大も含まれており、今後は日獣大の割合が減ることで NOSAI 夏期臨床実習に参加した学生のうちかなりの割合が産業動物臨床に就職すると思われる。後日、詳細はデータをまとめて提示する。
- ⑭ (⑤を受けて)島根:一度小動物臨床へ就職した獣医師の中には、NOSAI 夏期臨床実習に参加していたことで産業動物臨床へ再就職した事例もあり、やはり本事業の効果はあると思う。

- ⑮ 北海道:独自のアンケート結果から、低学年のうちから NOSAI をもっと広報してほしい、という要望が学生にあることがわかった。そうであれば、各大学で NOSAI について知ってもらう機会を十分に設けてもらえばさらなる理解が得られるのではないかと。

(回答)その通りだと思う。加えて、低学年向けの「early exposure 実習」によって学生の関心を産業動物へ誘導していくことも考えていかなければならない。

- ⑯ 北海道:北海道では NOSAI の採用試験時にアンケートを実施しており、その中で産業動物獣医師を志したきっかけとして圧倒的に多いのは臨床実習だが、その次に多かったのは大学の教員が講義の中で NOSAI の業務について説明したことであった。つまり、大学の教員の影響力は非常に大きいと思う。入学前から就職の方向性を決めている学生もいるが、産業動物を志望する時期はバラバラであり、何かしらのきっかけがあれば産業動物へ関心を持ってもらえる。したがって、NOSAI としては大学の授業の中で 1 コマでも説明の機会があればありがたい。

- 2) 平成 29 年度の募集要綱(資料 2)および平成 29 年度 NOSAI 夏期臨床実習運営スケジュール(資料 3)について

岐阜大学(大場)が、平成 29 年度 NOSAI 夏期臨床実習の募集要綱について説明した。昨年度との変更点は特になかった。その後、質問内容等について質問を参加 NOSAI から受け、それに事務局が回答した。

主な質問とそれに対する回答

- ① 岡山:待ち合わせ場所にいる学生の顔がわからないため、顔写真を添付してはどうか。

(回答)学生に配布される手引きの中に集合に関する事項も記載されているが、再度学生に待ち合わせ場所に到着したら NOSAI 側へ連絡させることを徹底する。

- ② 兵庫:学生に配布される手引きに、実習日誌の内容を毎日確認する旨を明記してはどうか。

(回答)ステップアップ編の手引きについてはそのような内容を記載する。

- ③ 協会:来年度から参加型臨床実習が始まることから、NOSAI 夏期臨床実習では何か条件を入れていなくてもよいのか。例えば、ステップアップ編では共用試験を合格している、スタンダード編に参加している、または参加型臨床実習を終えているなど。

(回答)共用試験は各大学で実施時期が異なるため、条件として入れることは難しい。現時点では条件を入れることはできないが、今後の課題とする。

- ④ 協会:参加型臨床実習が始まると、スタンダード編に参加する学生は実質的に 1~4 年生が中心となり、それを想定した内容に変更する必要がでてくるのではないかと。また、低学年においても 1、2 年生と 3、4 年生を分けて実習を考えていくべきか。

(回答)導入という形で 1、2 年生用の実習システムを新たに構築することもよいと思う。一方、参加型臨床実習は夏休みに実施されることはほとんどないため、5 年生は NOSAI 夏期実習を受ける可能性はある。どのような事業を組むかは今後の状況次第である。

- 3) 平成 29 年度関連フォーラム(3 月 6 日開催)について

岐阜大学(大場)が本事業の関連フォーラムを開催することを説明し、参加を呼びかけた。日時は 2017 年 3 月 6 日(月)の 15 時開始を予定しており、場所は東京大学である。講演および会場については後日連絡する。

4) その他

最後に、岐阜大学(北川)から、今後本事業は低学年向けの「early exposure 実習」と産業動物臨床に就職を希望する学生向けの「即戦力獣医師養成 advanced 実習」を担っていくことになる旨の説明があった。

以上

4) シンポジウム(関連フォーラム)の開催

平成29年3月6日に、本事業の分野1「公衆衛生分野における全国の実習システムの構築」を担当する東京大学と合同で平成28年度事業成果発表を含んだシンポジウムをポスターに示す要領で開催した。

出席者(全31名):文部科学省1名、全国農業共済協会2名、京都府生活衛生課1名、日本養豚開業獣医師協会(JASV)1名、愛知県中央家畜保健衛生所1名、国際獣疫事務局(OIE)1名、藤原動物病院1名、北海道農業共済組合連合会1名、兵庫県農業共済組合連合会1名、岡山県農業共済組合連合会1名、酪農学園大学2名、岩手大学2名、北里大学3名、東京大学2名、東京農工大学1名、日本大学1名、岐阜大学3名、大阪府立大学1名、山口大学1名、宮崎大学1名、鹿児島大学3名)

獣医学教育実習サミット

日本の次世代獣医師 を育成するために PART 3

2017年3月6日(月) 15:00-17:30
東京大学農学部内 フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール

講演内容

15:00-15:30

I 特別講演

文部科学省高等教育局 専門教育課 課長補佐 辻 直人
「獣医学教育の改善・充実に向けた取り組みについて」

15:30-16:00

**II 「大学における公共獣医事教育推進委託事業」
事業概要と今年度の実績**

・杉浦勝明 東京大学大学院 教授 分野1チーフコーディネータ
・大場恵典 岐阜大学 教授 分野2コーディネータ

16:00-17:30

III 実習機関からの報告

- ◆北海道内のNOSAIにおける臨床実習の現状と課題
北海道農業共済組合連合会 家畜部長 廣田 和久
- ◆「おこしやす京都」京都府公衆衛生獣医師体験実習事業
京都府生活衛生課 食品衛生担当 水谷 敢太郎
- ◆NOSAI岡山の臨床実習の現状と課題
岡山県農業共済組合連合会 家畜部長 植月 義友
- ◆JASVでVPcamp
日本養豚開業獣医師協会(JASV) 藤原 孝彦
- ◆家畜保健衛生所における行政体験研修の実施状況と課題
愛知県中央家畜保健衛生所高度病性鑑定課 課長 山本 雅夫
- ◆獣医学教育の国際化とOIEの取組について
国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所代表 釘田 博文

VPcamp 公衆衛生獣医師 インターンシップ

主催 大学における公共獣医事教育推進委託事業

産業動物臨床獣医 学生応援プロジェクト NOSAI夏期臨床実習



本日、お話しさせていただく項目

- 北海道内の診療実態
- 臨床実習の概要
- 臨床実習の課題

NOSAI

本日、お話しさせていただく項目

- 北海道内の診療実態
- 臨床実習の概要
- 臨床実習の課題

NOSAI

引受頭数_平成27年度実績

- 乳牛 1,382 千頭
- 肉牛 268 千頭
- 馬 19 千頭
- 種豚 5 千頭

NOSAI

病傷事故診療件数_平成27年度実績

- 乳牛 709,533 件
- 肉牛 47,783 件
- 馬 11,612 件
- 種豚 79 件

NOSAI

獣医師数と診療回数_平成27年度実績

- > 道内NOSAI臨床獣医師数 721 名
- > 診療回数(事故外含) 250万回
- > 獣医師一人当診療回数 3,470 回/年
- > 獣医師一人当業務日数 約250 日/年
- > 獣医師一人当診療回数 14 回/日

NOSAI



本日、お話しさせていただく項目

- 北海道内の診療実態
- **臨床実習の概要**
- 臨床実習の課題

NOSAI

北海道における臨床実習の方法

- ◆ 夏期臨床実習 7月～9月 岐阜大
- ◆ 冬期春期実習 **上記以外** 本会
- ◆ 対象学年 全学年

NOSAI

NOSA | 診療所の受入体制_北海道

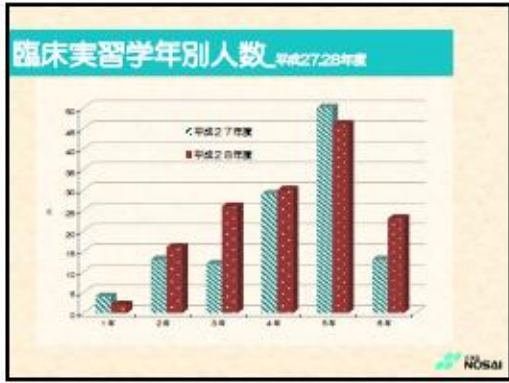
- ◆ 受入可能診療所数 約50箇所
- ◆ 受入可能人数 約1,900名/通年
- ◆ 経費支援 旅費、宿泊料等一部助成

NOSAI

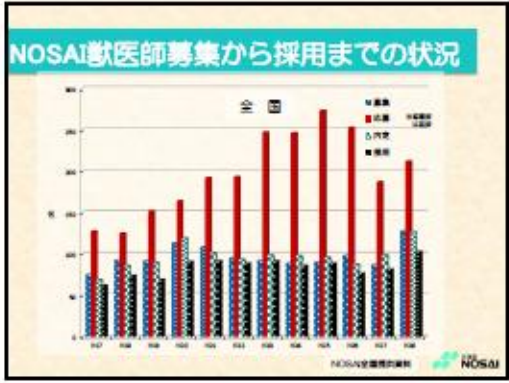
臨床実習期間・研修項目イメージ

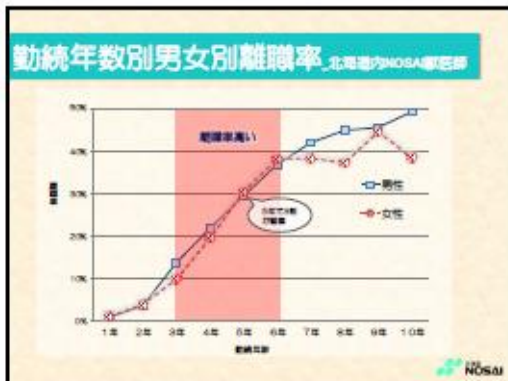
学年	期間	研修項目			
		施設訪問 知識共有	往診随行	検査実習	調剤実習
1~2	3日	◎	△	-	-
3~4	5日	○	○	○	△
5~6	10日	△	◎	◎	○

NOSAI



- ### 本日、お話しさせていただく項目
- 北海道内の診療実態
 - 臨床実習の概要
 - 臨床実習の課題





平成28年度採用試験応募者の実習動向

H28.7 採用試験 応募者*	4~6月 臨床実習			10~3月 臨床実習			7~3月 臨床実習		
	H28_6年生			H27_5年生			H27_5年生		
	総数	内訳	割合	総数	内訳	割合	総数	内訳	割合
55	22	22	100.0	27	17	63.0	22	15	68.2

* 応募者55名中42名 (76.4%) が実習経験あり



- ### 共用試験開始後の対応
- ✓ 基本的にアドバンス実習を受入
 - ✓ 北海道への就職を考慮している学生を対象
 - ✓ 共用試験前の学生も受入

- ### NOSA I から大学に希望すること
- ✓ 契約が必要な場合は、**団体長**と
 - ✓ 臨床獣医師の**実習指導資格**を明確かつ現場の実態を踏まえて
 - ✓ 実習前の**協議**、大学教員が極力**現地**出向・引率
 - ✓ 実習**結果の評価方法**を簡潔かつ明確に



ま と め

- 大学と連携して臨床獣医師を育成
- 臨床獣医師を目指す学生を積極的に受入
- 実習現場が混乱しないような実習ガイドライン
- 大学教官と臨床獣医師の交流

Nōsai



2017/3/3

NOSAI岡山の臨床実習の現状と課題

岡山県農業共済組合連合会
家畜部 植月 義友

NOSAI岡山について

岡山県農業共済組合連合会

<所在地>
〒700-8602 岡山市北区赤田町1番30号
TEL: (086) 224-5566 (代)
FAX: (086) 225-7053

家畜診療所について(1)

全県獣医療支援センター及び家畜診療所

NOSAI岡山家畜診療所再編図

家畜診療所について(2)

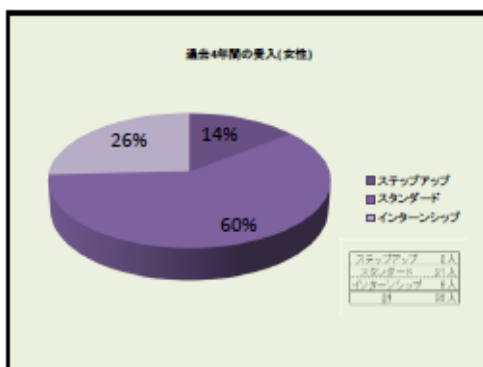
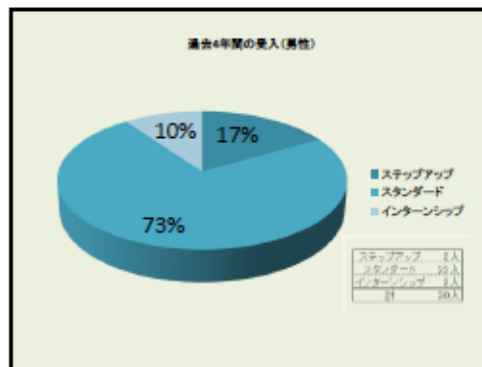
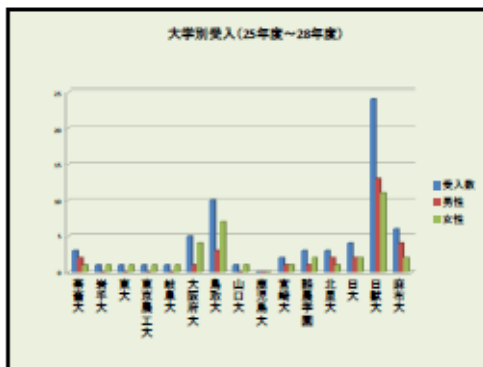
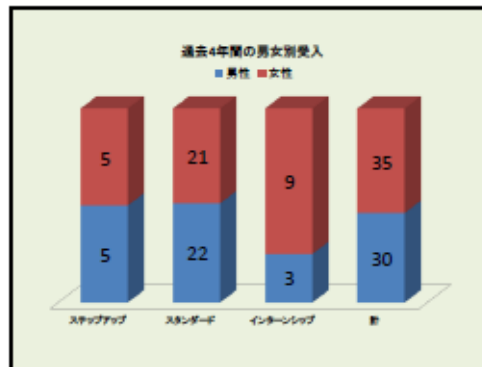
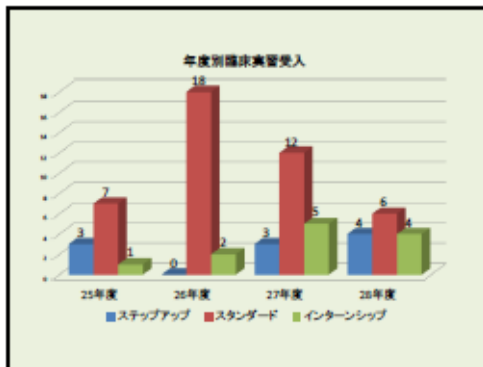
平成29年1月1日

	獣医師		事務職員		職員数
	男性	女性	職員	臨時	
全県獣医療支援センター	4	1		1	5
青洲家畜診療所	2	1		1	4
西部基幹家畜診療所	4	2	1		6
西部家畜診療所	3	1		1	5
新見支所	1	1			2
北部基幹家畜診療所	7	3	1	1	12
真庭家畜診療所	3	1		1	5
岡山家畜診療所	4	1		1	6
合 計	28	6	4	5	43

家畜診療所について(3)

診療所	獣医師	男性	女性	職員	臨時	合計
青洲家畜診療所	5	1	4	0	1	10
西部基幹家畜診療所	2	0	2	0	0	4
西部家畜診療所	1	0	1	0	0	2
新見支所	1	1	0	0	0	2
北部基幹家畜診療所	3	3	0	1	1	8
真庭家畜診療所	12	0	12	1	0	25
岡山家畜診療所	7	2	5	1	0	15
全県獣医療支援センター	7	5	2	1	0	15
合 計	50	7	43	3	1	104





臨床実習における重点項目(1)

スタンダード編

- 県内の畜産農家の現状
 - 酪農
 - 肥育
 - 和牛繁殖
- NOSA獣医師の役割
- 臨床現場の実態
 - 保定法
 - 診断法
 - インフォームド・コンセント
 - 治療法

臨床実習における重点項目(2)

- ステップアップ編
- 1 生産獣医療(健康検査の重要性)
- 2 繁殖検診(生殖器病・エコー検査)
- 3 内科(一般診断・血液検査等)
- 4 外科(適応診断・手術の術式等)
- 5 周産期疾病(難産・産後の疾病)
- 6 泌乳器疾患

臨床実習現場(繁殖検診)



臨床実習現場(生産獣医療)

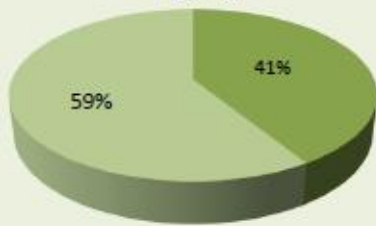


臨床実習現場(外科手術)



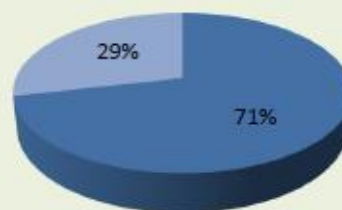
過去5年間の採用試験
受験者における実習履歴

■有 ■無



過去5年間の獣医職員
採用における実習履歴

■有 ■無



夏期臨床実習の課題(1)

受入診療所側の課題

- 1 期間(現在7月～9月)
(今後総合参加型臨床実習との調整)
- 2 指導者の条件
(経験年数による指導内容の差異)
- 3 実習期間の疾病の発生頻度
- 4 実習内容の差異
(スタンダード編・ステップアップ編)
- 5 施設の問題

夏期臨床実習の課題(2)

学生側の課題

- 1 目的意識
(目的意識が不透明)
- 2 実習態度
(規律態度)
- 3 農家とのコミュニケーション
- 4 経験の差
- 5 衛生上の問題

夏期臨床実習の課題(3)

大学への要望

- 1 実習希望者への事前指導
 - (1) 産業動物獣医師の役割
 - (2) 規律・身なり(防疫の重要性)
- 2 安全保障・損害賠償
 - (1) 人への課題
 - (2) 対象動物の課題
- 3 経費の課題

まとめ

農家からの一言(岡山弁)
「わしら一先生らがおらなんたら牛が飼えんようになるけん頼むでー」

この一言の意図は人それぞれであろうが、経営形態等の変換する中、獣医師は柔軟に対応することも必要となる。

畜産の発展と消費者への安心・安全な畜産物を供給するためには、獣医師は欠かせない。

熱意と行動力のある優秀な産業動物獣医師を育成するため大学・行政・関係団体との連携は欠かせない。

将来の畜産を担うため産業動物に従事する多くの獣医師の育成を望みます。

平成28年度「日本の次世代獣医師を育成するためにPART3」シンポジウム

家畜保健衛生所における行政体験研修の実施状況と課題

愛知県中央家畜保健衛生所

説明内容

- 1 愛知県の畜産概要
- 2 研修実績(平成23～28年度)
- 3 行政体験研修の実施内容
- 4 行政体験研修の課題

愛知県の家畜飼養頭羽数

H28. 2. 1 畜産統計

	酪農	肉用牛	豚	採卵鶏
飼養戸数	334	348	209	157
	12位	25位	8位	2位
飼養頭羽数	26,200	42,200	333,300	6,870千
	7位	17位	10位	5位
1戸当たり飼養頭羽数	78.4頭	121.3頭	1,594.7頭	43.8千
	6位	6位	21位	24位

※ 下段は全国順位

愛知県の畜産関係機関 (赤字は近年の研究実施場所)

- ・農林水産部畜産課
- ・家畜保健衛生所(本所3か所、支所3か所)
- ・畜産総合センター
 - 本場(牛群検定、牛受精卵移植、系統豚維持・譲渡等)
 - 三河高原牧場(和牛繁殖素牛生産・譲渡)
 - 段戸山牧場、茶白山高原牧場(乳用雌子牛育成・譲渡)
 - 種鶏場(名古屋コーテン増殖、種卵・ひな譲渡)
- ・農業総合試験場(牛、豚、家きん、家畜ふん尿処理の試験研究)
- ・農林水産事務所(7か所)



中央家畜保健衛生所の主な所掌事務

高度病性鑑定課

- 全例調整-特定伝染病G
 - ・複数家畜に共通する家畜衛生業務の企画・調整
 - ・緊急を要する防疫初動体制の確保
 - ・家畜衛生研修
 - ・牛痘種状顕微鏡検査、死亡牛届出
- 病性鑑定G
 - ・細菌学的、ウイルス学的、病理学的、生化学的検査及び鑑定
 - ・病性鑑定の企画・調整

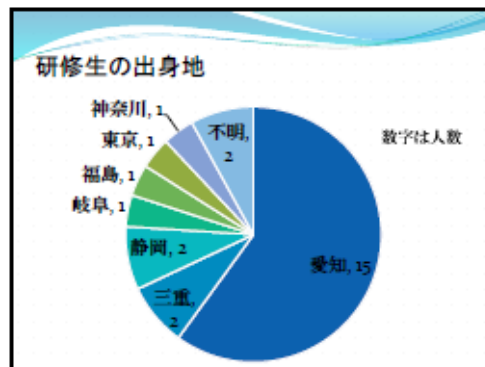
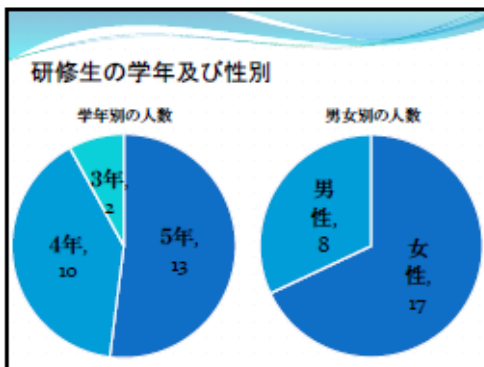
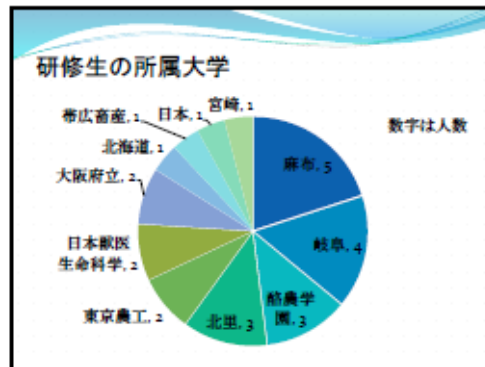
保健衛生課

- 防疫G
 - ・家畜の伝染病予防
- 指導G
 - ・家畜衛生業務知識の普及・技術指導
 - ・動物糞草、糞尿、環境保全

研修実績(平成23~28年度)

年度	実施回数			受入学生数	
	西部家保	中央家保	東部家保	行政体験 [※]	個別研修
23	1	2	0	3	1
24	0	1	1	2	1
25	0	2	0	4	0
26	2	1	0	5	0
27	0	2	0	8	0
28	0	1	0	1	0
合計	3	9	1	23	2

※ 家畜衛生対策推進協議会(中央畜産会)が主体の行政体験研修



- ### 行政体験研修の主な実施内容
- ・家畜保健衛生所の業務説明
 - 高度病性鑑定課
 - 保健衛生課
 - ・各種検査の体験実習
 - 採血、病理解剖、細菌・ウイルス・病理検査、直腸検査等
 - ・県畜産関係機関の見学及び業務説明
 - 畜産総合センター(本場、種鶏場)
 - 農業大学校
 - ・農場立入調査の見学

行政体験研修の日程表(例)

月日	午前	午後
8月31日(月)	①講話 (家畜保健衛生所とは) ②研修概要説明	①企画調整G概要説明 ②所管法律等説明
9月1日(火)	保健衛生課概要説明 (AI対応概要も説明)	①ウイルス検査 ②細菌検査
9月2日(水)	①病理検査 ②病性鑑定G概要説明	農業大学校見学(午)
9月3日(木)	実験室内検査 (FRRS等検体検査)	畜産総合センター見学
9月4日(金)	農業大学校見学(朝)	①AI-FMD県域研修会概観 ②総括質疑等

室内検査実習



鶏検査実習



畜産総合センター見学



畜産総合センター実習



農業大学校見学



受講後の研修生の感想

- 様々な体験ができ、家保の役割と業務内容を理解できた。
- 養豚、養鶏農場で実際の飼養管理を見ることができて参考になった。
- 鳥インフルエンザ発生時の初期防疫の体験談がとても参考になった。
- 大学で学んでいることが現場でどのように活用されているかわかった。
- 家保が担う様々な役割や大学では学べないことを知ることができた。
- 県で働く獣医師の様々な職場を知ることができた。
- 家保の仕事の大変さとやりがいを感じる事ができた。
- 公務員の長所・短所等について生の声を聞くことができた。

行政体験研修の課題

- ・時期
夏期は家畜のストレスが多く、検査を控えているため、農場での研修の機会が少ない
- ・場所
疾病発生予防のため、大人数での立入は敬遠され易く、農場での研修が難しい
- ・人数
安全な研修のため、大人数の受入れが困難
- ・受入態勢
研修受け入れについて、多くの所属等との調整が必要

II 「大学における公共獣医事教育推進委託事業」
事業の概要と今年度の実績

分野2
畜産等分野における全国の実習システムの構築

岐阜大学 大場恵典

公共獣医事の目的
食の安全・安心の確保、国民の保健衛生の向上

フードチェーンと公共獣医事の実施機関

1. 農家での獣畜生産・健康管理 ⇒ 【養畜共済団体 (NOSAI) 獣畜診療所】
2. 獣畜衛生 (防疫・保健) ⇒ 【獣畜保健衛生所 (獣保)】
3. と畜場での屠体検査 ⇒ 【食肉衛生検査所】
4. 市場・販売店での食肉衛生管理 ⇒ 【保健所】

↓

分野2 養畜産物実行機関連携

目的 NOSAIと獣保の連携を一進の機と捉え、これら機関の知能・技術を連携し、畜産性肉衛生に総合的に対応できる獣医員を育成するための全国実習システムを構築する

養畜共済団体 (NOSAI) 産物動物臨床実習
獣畜保健衛生所 (獣保) 獣畜防疫・保健衛生実習

⇒ 新規実習システム
NOSAIと獣保の連携及び連携を
統合的かつ実践的に学ぶ実習

運営組織

畜産等分野における公共獣医事に係る実習システム開発・運営
実習方法、実習内容決定、実習手帳発行、実習内容決定、実習手帳発行

コーディネーター会議
代務校 (岐阜大学)

協力校 (岐阜大学、北里大学、鹿児島大学)

全国獣医系16大学 (総合獣医系6校)
「屠体検査」・「食肉衛生検査」及び「防疫・保健」に関する実習

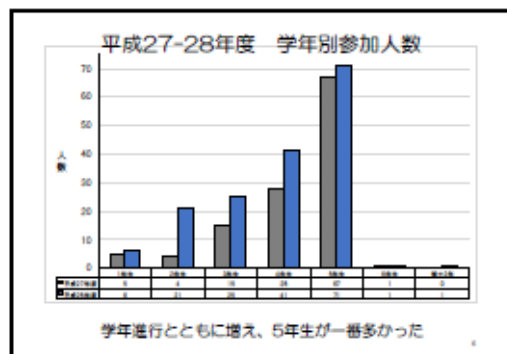
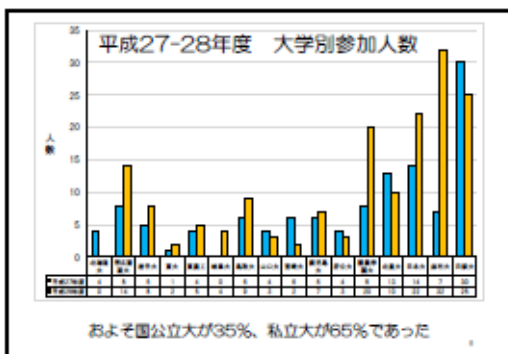
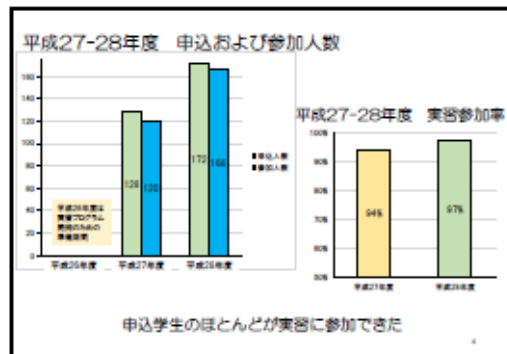
全国獣医系16大学 (総合獣医系6校)
「屠体検査」・「食肉衛生検査」及び「防疫・保健」に関する実習

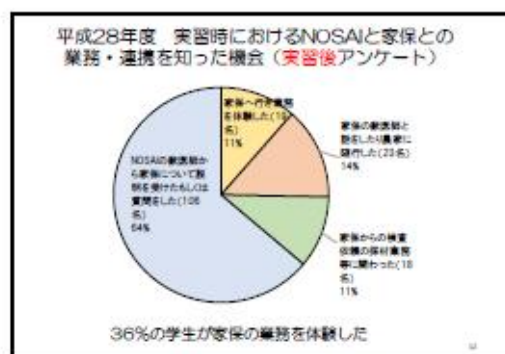
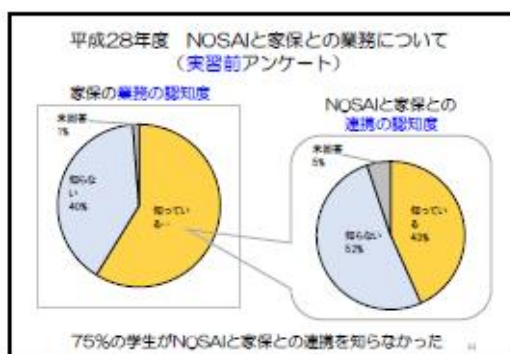
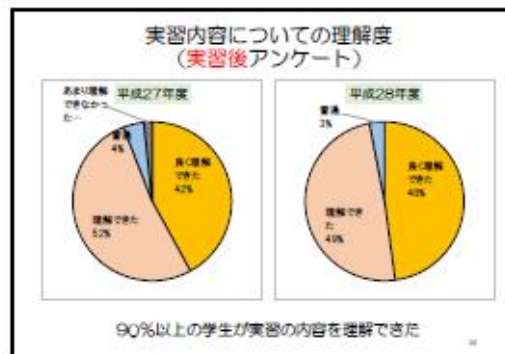
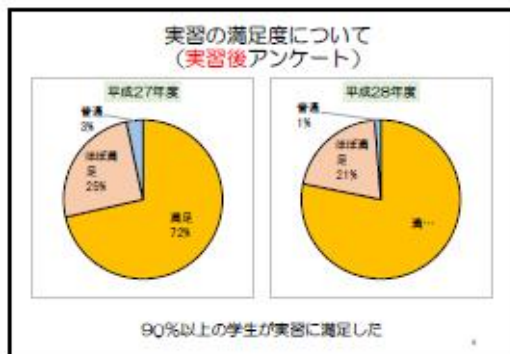
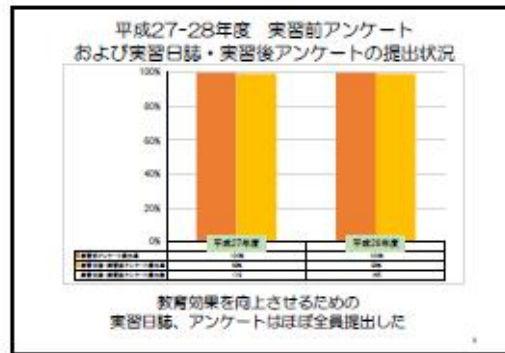
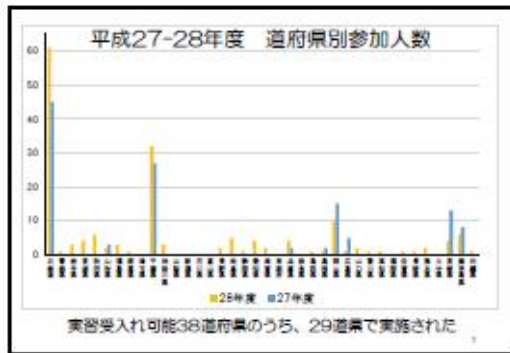
スガジュール

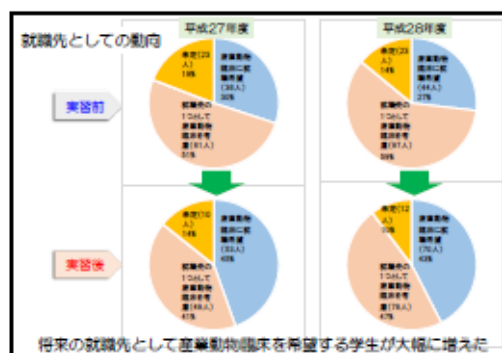
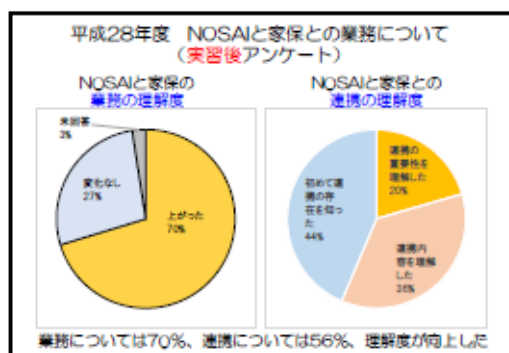
H26: 岐阜大学で実習を先行 (NOSAI等、岐阜県家畜保健衛生所) 協力校3校についても連携に先行し、実習プログラムの開発・検討

H27: 10県 (北海道、宮城、山形、千葉、兵庫、鳥取、岡山、広島、高松、鹿児島) で実施

H28: 全国で実施







3年間の実績と今後の課題

- 獣医系16大学すべてから学生の参加があり、また、実習受入先も38道府県にのぼり、全国の実習システムの構築ができた。
- 多くの参加学生が実習満足度・理解度はともに高く、学生と指導獣医師の両方の意欲が向上し、実習内容も良好であった。
- 多くの参加学生がNOSAI（産業界動物臨床）と家畜保健衛生所（家畜衛生）の業務及び連携を認識・理解したと回答し、実習が各機関の業務及び連携の認識・理解向上に貢献できた。
- 実習後、将来の就職先として産業界動物臨床への希望が大きく増加し、実習が産業界動物臨床獣医師育成にも十分貢献できた。
- 隣国で家畜感染症が常時発生し、畜産物の輸出拡大を目指す社会において、国際的防疫体制、生産性向上、国際競争力などが求められている。今後、産業界動物臨床において即戦力として活躍する獣医師の養成が不可欠であり、高度獣医療技術の修得を目的とした先進的かつ実践的なアドバンスト教育プログラムの構築が必要である。

5) 個別協議

下記の日程で、関係省、全国農業共済協会および複数県の農業共済団体と個別に協議し、事業説明および農業共済団体等における臨床実習システムについての協議、調整を行った。

平成 28 年 5 月 17 日 滋賀県農業共済組合連合会、滋賀県畜産家

平成 28 年 5 月 23 日 文部科学省専門教育課

平成 28 年 5 月 26-28 日 香川県農業共済組合連合会、県畜産課、愛媛県農業共済組合連合会

平成 28 年 6 月 6 日 文部科学省専門教育課

平成 28 年 6 月 10-11 日 高知県農業共済組合連合会、高知県庁畜産振興課

平成 28 年 6 月 22-24 日 山口県農業共済組合、県畜産振興課、長崎県農業共済組合連合会、
県農林部畜産課家畜衛生班

平成 29 年 2 月 14 日 文部科学省専門教育課

平成 29 年 3 月 22-23 日 北海道農業共済組合連合会

6) 平成 26-28 年度事業のまとめ

公共獣医事は、国または地方公共団体等が実施する獣医関連事業であり、「食の安全・安心の確保」、「国民の保健衛生の向上」等を目的として、産業動物の健康管理、食品の安全性確保、さらに国民の保健衛生管理等を実施することである。この公共獣医事の実施機関をフードチェーンの観点から見ると、家畜の生産指導・健康管理を担う全国の農業共済団体(以下 NOSAI と記す)、家畜診療所、家畜防疫・保健衛生を担う家畜保健衛生所、と畜場における食肉検査を実施する食肉衛生検査所、さらに市場・販売店等における食品衛生管理を担う保健所という獣医師の関与する仕事の流れがある。

大学における公共獣医事教育推進委託事業(公共獣医事事業)の分野 2 では、この流れの上流に位置する NOSAI・家畜診療所の業務である「家畜の生産指導、健康管理」とその下流に位置する家畜保健衛生所の業務である「家畜防疫・保健衛生」を一連の流れとして捉え、これらに関する専門知識・技術を実践的に習得し、家畜伝性病の発生等に総合的に対応できる獣医師を育成するための実習プログラムを開発・作成する。さらに、同プログラムに獣医系学生が参加できる全国的実習システムを新規に構築することを目的とする。本システムは、体験実習に留まらず、高度病性鑑定及び家畜防疫・保健衛生に踏み込んだ実践的なプログラムの構築を目指す。

1. 畜産分野における公共獣医事に関する実習プログラムの開発・実施

家畜保健衛生所における家畜防疫及び家畜衛生に係る実習と産業動物臨床実習を連携・融合したプログラムを新規に開発・実施する。

2. さらに、各都道府県の家畜保健衛生所との連携に重点を置いた全国的な実習プログラムへと展開する。

具体的には、以下の4つを実習に取入れる。

- 1) 畜産農家に対する家畜衛生に係る基本指導
- 2) 感染症を含む家畜疾病の臨床診断と治療
- 3) 畜産現場と家畜保健衛生所の連携・実践(情報提供、農家における材料採取、検査等の依頼、病性鑑定とその結果に基づく防疫・衛生指導)
- 4) 検査結果に基づいた家畜防疫・家畜衛生指導の実践

1. 事業スケジュール

事業のスケジュールは以下のとおりである。

平成 26 年度 本事業の開始が 10 月からであるため、平成 26 年度は岐阜県中央家畜保健衛生所、NOSAI 岐阜、岐阜大学および協力校(酪農学園大学、北里大学、鹿児島大学)において実習を試行する。

平成 27 年度 全国の主要 10 か所の NOSAI(北海道、山形、宮城、千葉、兵庫、岡山、広島、島根、宮崎、鹿児島)と関連家畜保健衛生所において臨床実習を行う。

平成 28 年度 事業を全国の NOSAI と関連家畜保健衛生所に拡大して実習を行った。

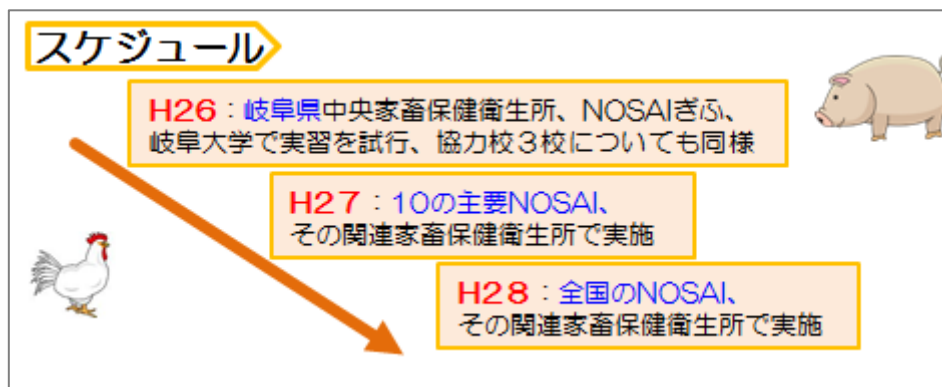


図1. スケジュール

2. 申込および参加人数、実習参加率、実習日誌アンケート集計結果

図 2 に示すように、平成 26 年は準備期間であり、公共獣医事事業として実習参加学生を募集しなかった。平成 27 年度は、主要 10 NOSAI と関連家畜保健衛生所において事業を実施し、128 名の申し込みと 120 名の参加があった。平成 28 年度は、実習を全国の NOSAI と関連家畜保健衛生所に展開し、172 名の申込と 166 名の参加があった。事業実施 NOSAI の拡大により申込および参加人数が増えた。

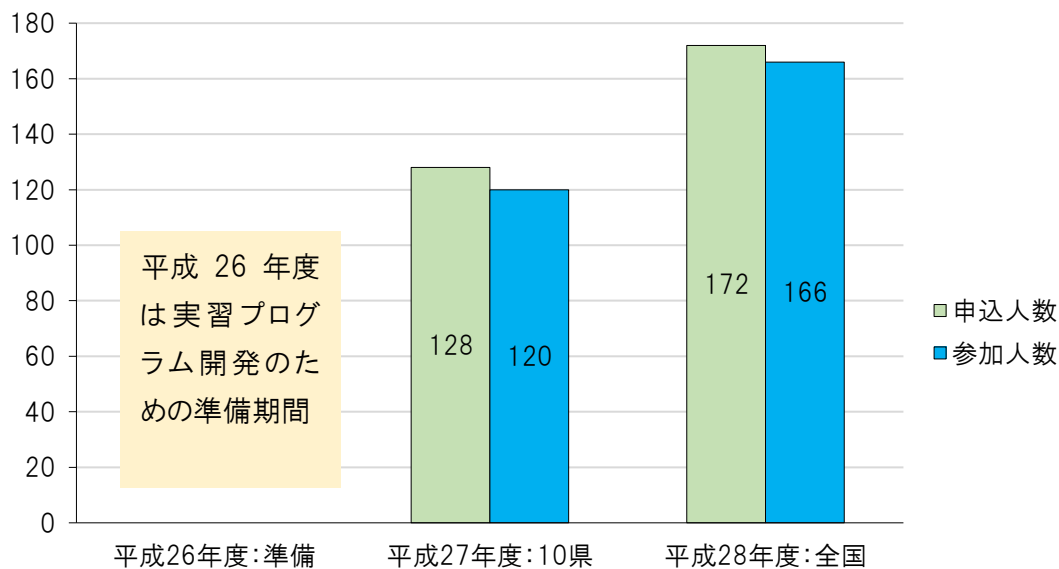


図2. 公共獣医事事業・夏期臨床実習 平成27-28年度申込および参加人数

図3に公共獣医事事業参加者の参加率(参加者数/申込者数)、参加率は平成27年度の94%から平成28年度には97%に増加した。このことについては、参加型臨床実習が開始されたために本事業に参加して単位を取得する必要のある学生が減少し、実習期間が短縮してNOSAIの受入が容易になったことが原因の一つとして考えられる。また、本事業の事務局の努力も関係していると考えたい。

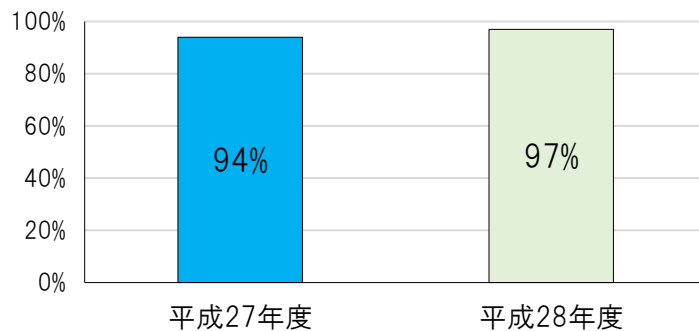


図3. 公共獣医事事業・夏期臨床実習
平成27-28年度実習参加率

3. 大学別参加人数

平成27年度と28年度の大学別参加人数を図4に示す。平成27年度は10県のみでの実施であったにもかかわらず、両年度ともほぼ16大学すべてから学生が参加した。事業範囲の拡大によって各大学とも平成28年度の参加者が増える傾向にあった。参加人数が比較的多かったのは帯広畜産大と私立大学(酪農学園大、北里大、日本大、麻布大、日獣大)であった。学生数を考慮すると、帯広畜産大は本事業への参加者が多いと考えられるが、私立大学と国公立大学の差は無いと考えられた。

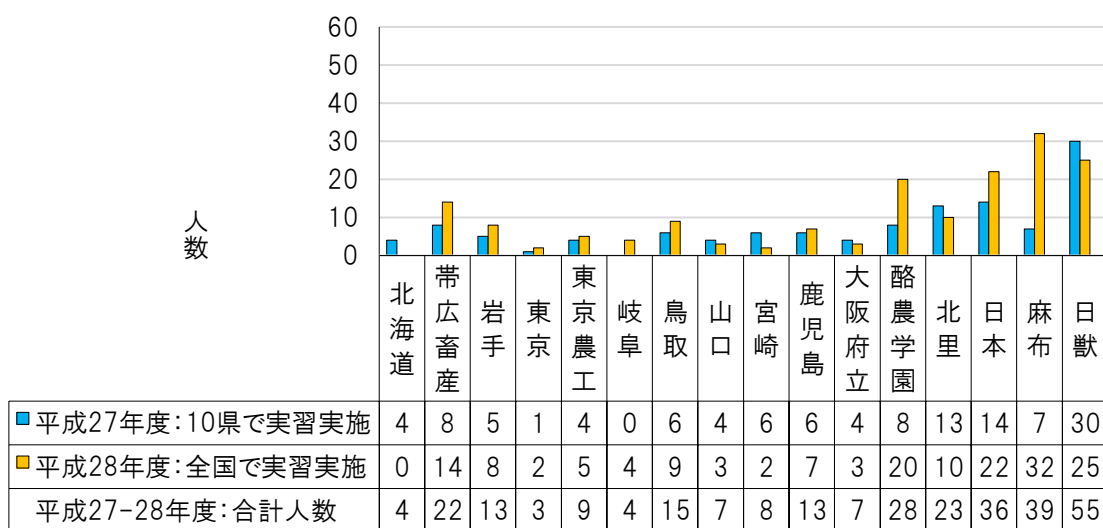


図4. 公共獣医事事業・夏期臨床実習 平成27-28年度大学別参加人数

公共獣医事事業の学年別参加人数を図5に示す。平成27年度と28年度の両方とも1年生から6年生までの参加があり、5年生が最も多かった。平成28年度は博士課程の学生の参加が1名あった。平成27年度と平成28年度を比較すると、事業規模の拡大に伴って参加人数が増加するのは当然であるが、平成28年の増加が多かったのは2年生、3年生、4年生の低学年であり、5年生の増加は明瞭ではなかった。5年生については、日獣大の参加型臨床実習(5年生)の実施に伴って、本事業に参加する学生が減少したこと、あるいは5年生は、自分自身の就職を考慮してはじめてから大規模NOSAIに参加する傾向にあることを示すと考えられる。

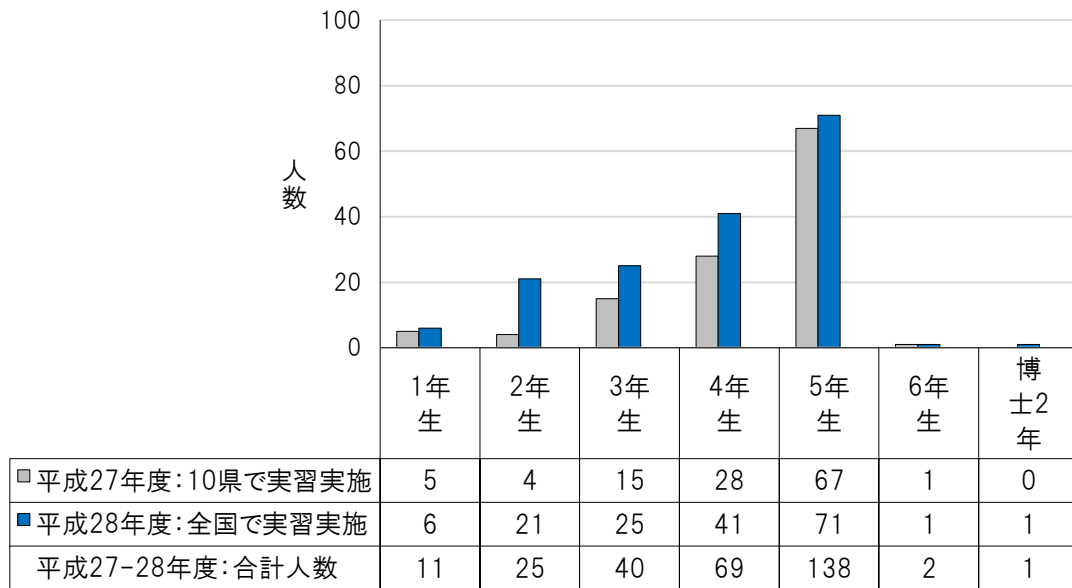
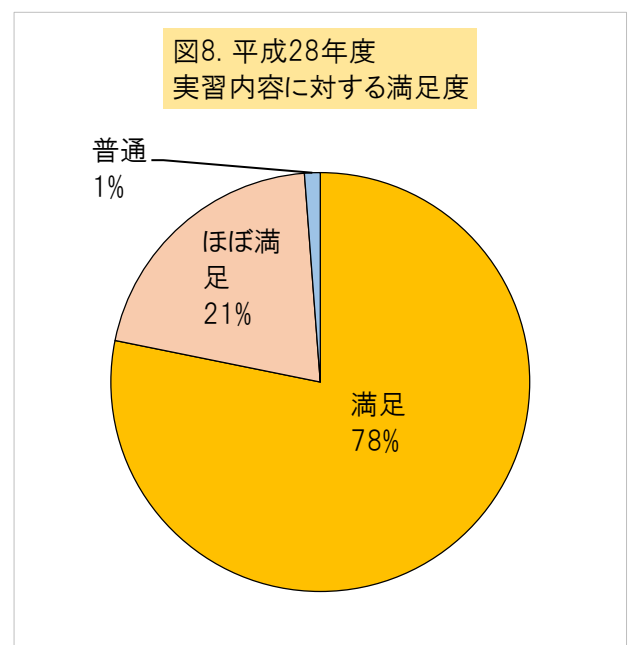
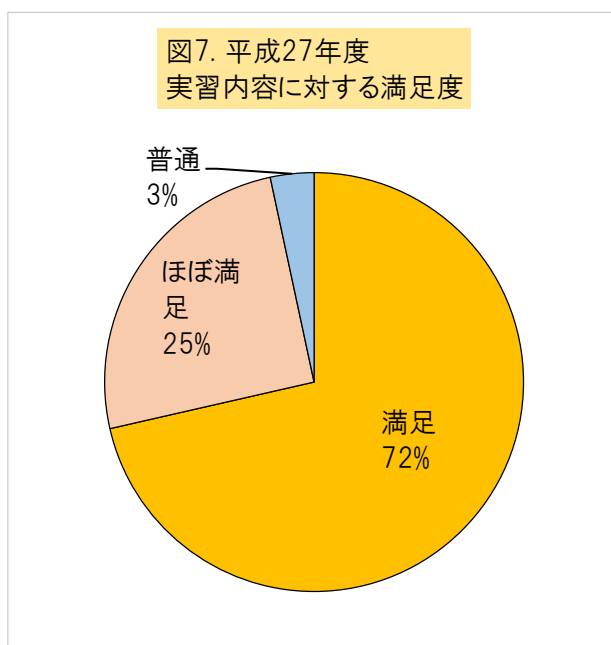
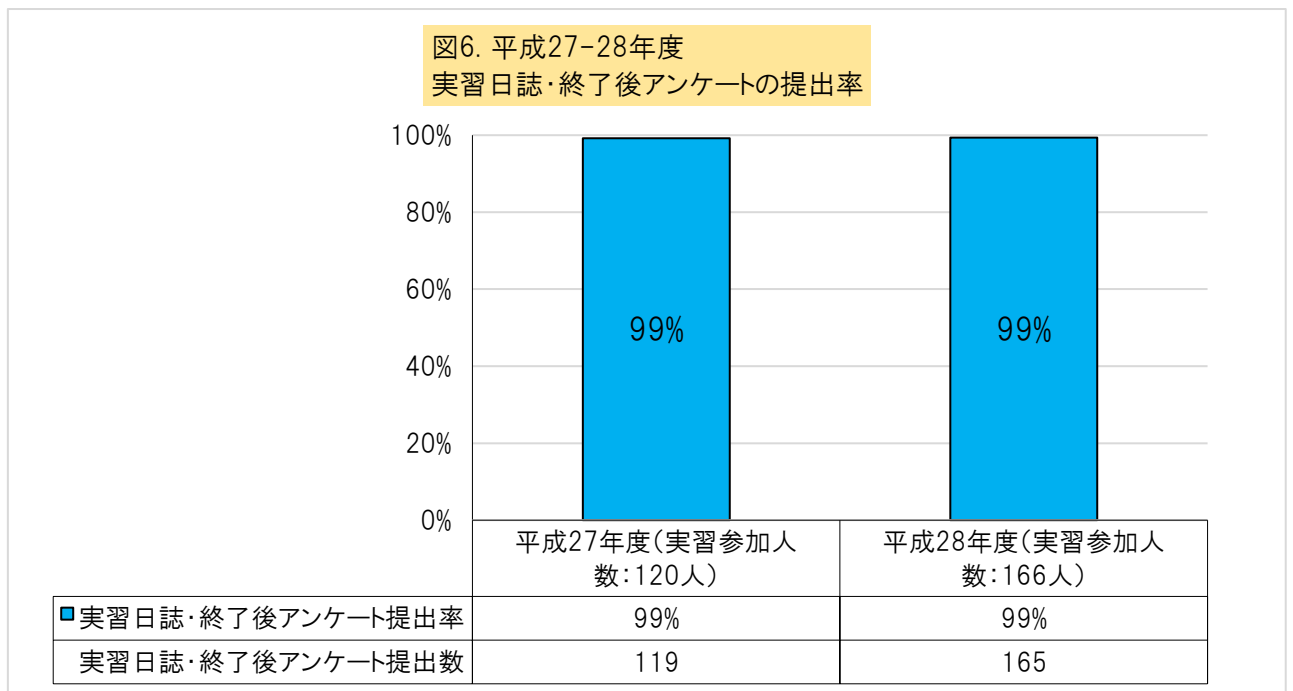


図5. 公共獣医事事業・夏期臨床実習 平成27-28年度学年別参加人数

図6に実習日誌・終了後アンケート提出率、図7、8に実習満足度を示す。参加学生からのアンケート提出率(図6)はもともと高く、平成27年度および平成28年度ともに99%となった。実習終了後のアンケート提出はほぼ定着したと考えられる。アンケートの結果、実習参加者の満足度も平成27年度の97%から平成28年度の99%に増加した。このことは学生と指導にあたる獣医師の両方の意欲が向上した結果であると考えられる。



3. 家畜保健衛生所における家畜防疫及び家畜衛生に係る実習と産業動物臨床実習を連携・融合したプログラム

実習日誌を提出した実習生(平成 27 年度 119 名、平成 28 年度 165 名)のうち家畜保健衛生所との連携を何らかの形で体験したのは、平成 27 年度が 40 名、平成 28 年度が 44 名であった。「家畜保健衛生所の家畜防疫・保健衛生について」具体的な項目を学生の実習日誌および実習レポートから集計した結果を図 9-10 に示す(複数回答有り)。図 9-10 で示す項目の内容は以下のとおりである。①飼養管理: 糞便とえさや飼養環境の関係、飼料のアドバイス(NOSAI 損害防止事業)、パーティクルセパレーターを用いた飼料給与指導、子牛の飼料設計、エサ自動給与機の使い方、飼料変更法、自動管理・データに基づく牛群管理指導、牛用ベッド見学、飼料ミキサー管理など、②衛生管理: ワクチン接種、白血病検査、保定・採血、診療車積載消毒槽による長靴等の消毒、細菌検査と薬剤感受性試験など、③生産獣医療: 牛群検診(代謝プロファイルテスト、卵巣検診)、糞のスクリーニング検査など、④アニマルウェルフェア: 飼養環境の差を確認する(フリーストールとタイトストールの比較)、牛床改善など。

主要な 10 か所の NOSAI で事業を実施した平成 27 年度は、①使用管理 22%、②衛生管理 43%、③生産獣医療 25%、④アニマルウェルフェア 10%であった。事業を全国に展開した平成 28 年度は②衛生管理が増加し 71%となった。このことは、平成 28 年度に事業を実施した比較的規模が小さい NOSAI とその地域の家畜保健衛生所の連携がより密接であることが関与している可能性がある。また、実習参加学生数が比較的多い NOSAI を中心に訪問して事業説明と協力を依頼した結果、多くの NOSAI に本事業の内容が周知され、NOSAI と家畜保健衛生所との連携を NOSAI 獣医師が意識をして指導したことも平成 28 年度の②衛生管理の増加に関与している可能性がある。

図9. 平成27年度
家畜保健衛生所の家畜防疫・保健衛生の内訳
*実習日誌から集計

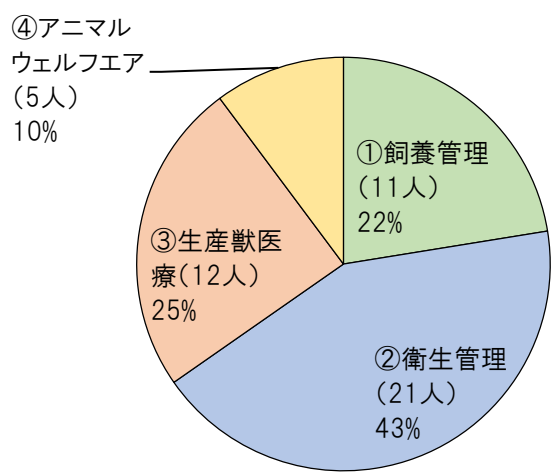
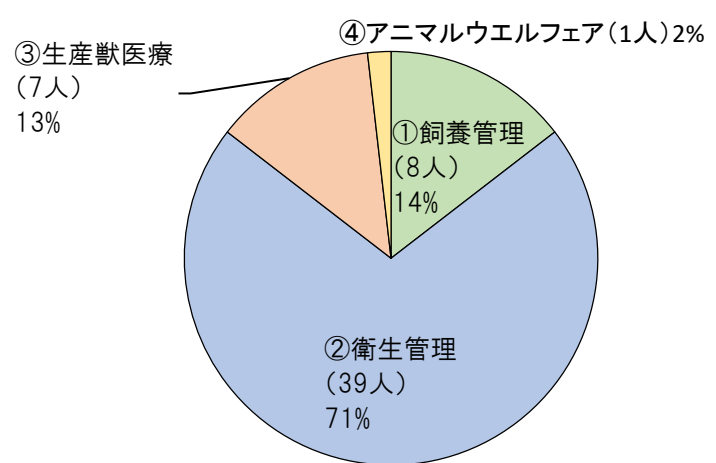


図10. 平成28年度
家畜保健衛生所の家畜防疫・保健衛生の内訳
*実習日誌から集計



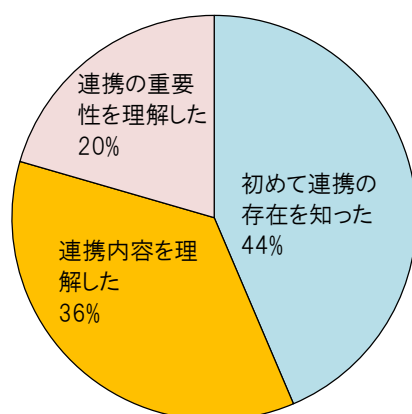
4. 公共獣医事業における NOSAI と家畜保健衛生所との業務について

平成 27 年度

(学生からの意見を実習終了後に提出されたアンケートから収集)

本実習では NOSAI と家畜保健衛生所との連携業務を必要に応じて実体験させるプログラムを盛り込んでいる。10 か所の主要 NOSAI における夏期実習の参加学生 120 人のうち 39 人が NOSAI と家畜保健衛生所との連携業務の在り方・重要性を理解・認識するか、実際に連携業務(採材、検査、病理解剖、病理組織診断等、勉強会等)を体験した。その 39 人の理解・認識度(図 11)については、44%が初めて NOSAI と家畜保健衛生所の連携の存在を知ったと回答した。このことは、NOSAI と家畜保健衛生所が実際に連携して活動し、家畜衛生の重要な部分であるにもかかわらず、学生にはそのことが十分に伝わっていない可能性を示す。本事業の参加者には産業動物臨床と家畜衛生の連携を知る機会を提供できたが、学生には低学年のうちに連携について教授する必要があると思われる。

図11. 平成27年度 NOSAIと家保との連携業務について



以下に NOSAI と家畜保健衛生所との連携業務に関する実習生からのコメントを示す。コメントからは具体的な記述もあり、連携について理解が深まったことが伺われる。

(実習生の実習日誌、実習レポートおよび終了後アンケートから抜粋。)

- ①検査依頼に関する書類の提出の際に、家畜保健衛生所の概要説明を受けた。
- ②NOSAI と家保の勉強会に参加した。
- ③流産胎子の原因の検査を家畜保健衛生所に依頼した。
- ④市営育成牧場のアナプラズマ発生予防のためのダニ対策や、白血病蔓延予防のためのアブ

対策に NOSAI と家畜保健衛生所が協力していた。また、企業農場では近年頻発している膣膿傷、臍帯炎に対して 2 者で協力して予防対策を講じていることから、疾病の大発生をいかにして予防するか、という群管理における疾病予防対策に 2 者が協力して取り組んでいることがわかった。

- ⑤検査依頼の材料採取として、ヨーネ病検査の採血、BVD 検査の採血に立ち会った。
- ⑥家畜保健衛生所にて解剖検査、会陰部から臀部にかけて、筋肉内部の変性がみられた。臓器の肉眼的所見は異常なし。細菌による感染が疑われた。
- ⑦農家指導時に立ち会い家畜保健衛生所と情報の共有を行った。
- ⑧家畜保健衛生所の施設見学をした。
- ⑨流産の病理解剖のために家畜保健衛生所へ行った。
- ⑩家畜保健衛生所でその働きなどについての説明を受けた。
- ⑪繁殖農家で、牛白血病検査のため採血、家畜保健衛生所と宮崎大学に検査依頼をした。

平成 28 年度

平成 28 年度は、NOSAI と家畜保健衛生所の連携に関して、実習前と実習後にアンケート調査を実施した。実習前と実習終了後の両方のアンケートを提出した 165 名の学生の回答を集計した

平成 28 年度 NOSAI と家保との連携業務に関するアンケート集計結果

実習前アンケート

3. 家畜保健衛生所の仕事内容を知っていますか？（知っている・知らない）

5. 3.で知っていると答えた人は、NOSAI と家畜保健衛生所との間で連携業務が行われていることを知っていますか？（知っている・知らない）

実習参加前の事前アンケートの結果を図 12-13 に示す。「家畜保健衛生所の仕事内容を知っていますか？」という問いに対して、回答した学生の 59%が知っていると答えた。さらに知っていると答えた人の中で NOSAI と家畜保健衛生所の連携を知っていると答えた人は 43%と少なかった。

図12. 実習前アンケート

Q.家畜保健衛生所の仕事内容を知っていますか？

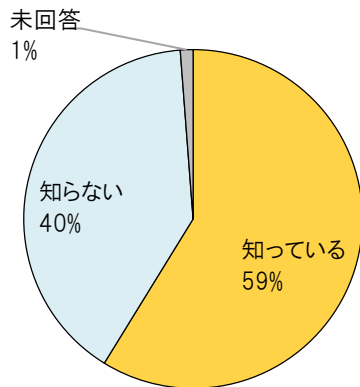
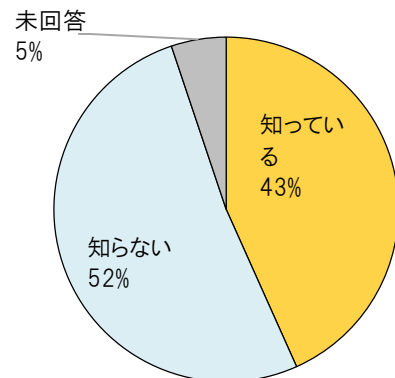


図13. 実習前アンケート

Q.「知っている」と回答した人は、NOSAIと家保の間に連携業務が行われていることを知っていますか？

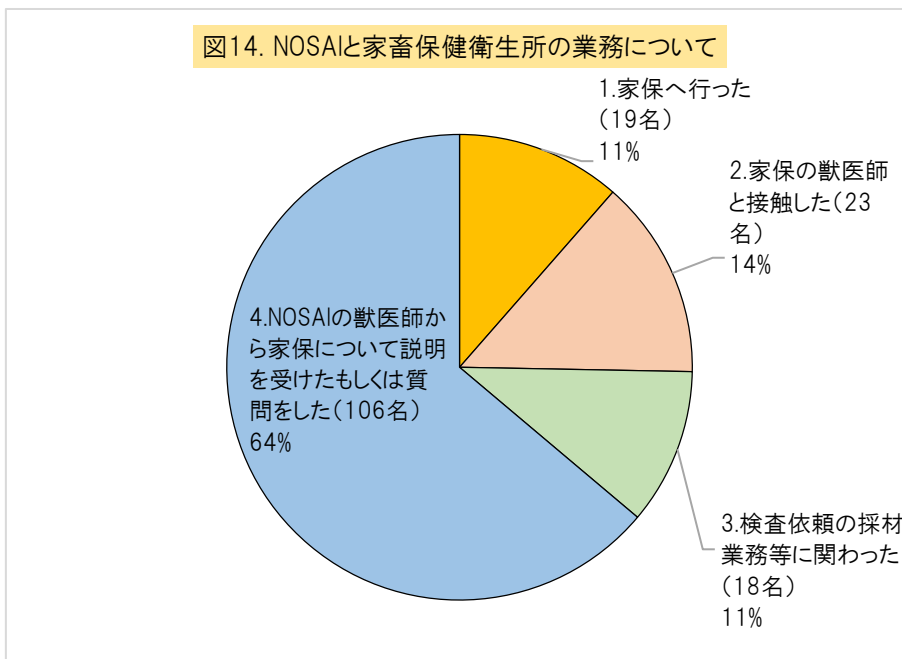


実習終了後アンケート

Q.NOSAI と家畜保健衛生所の業務について該当するものを選んでください。(複数回答可)

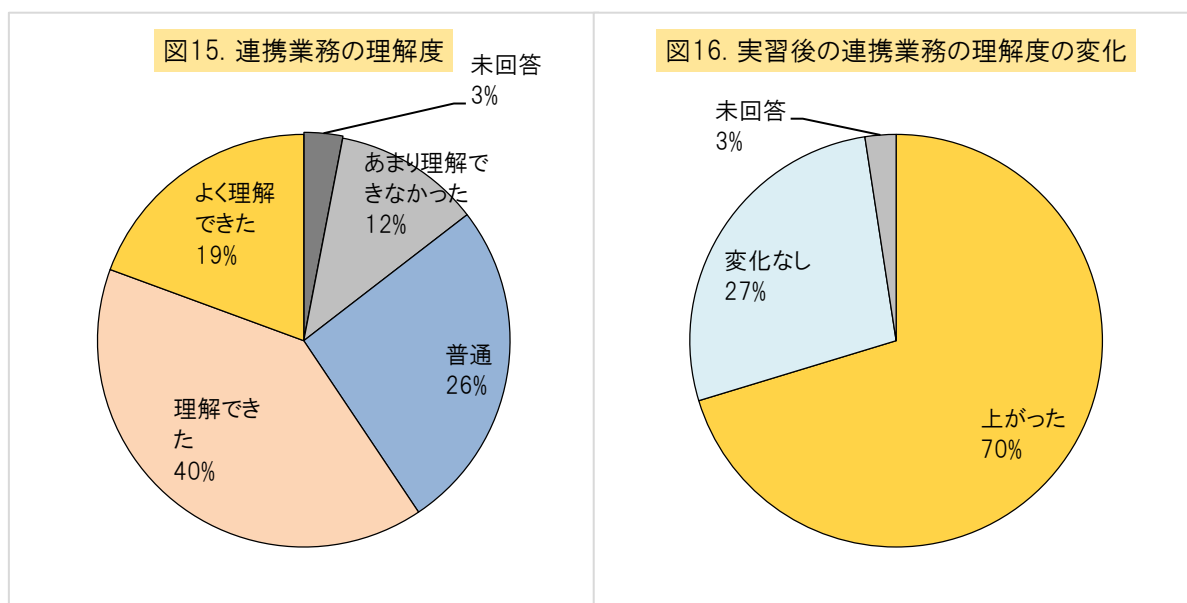
- 1 家畜保健衛生所へ行った(施設見学、業務見学、検査材料を持ち込んだ、勉強会等に参加した)
- 2 家畜保健衛生所の担当獣医師に接触する機会があった
- 3 家畜保健衛生所へ検査を依頼するため、または、家畜保健衛生所からの依頼で採材などの業務に立ち会った
- 4 NOSAI の担当獣医師から家畜保健衛生所に関して説明を受けた、または、家畜保健衛生所について質問をした

図 14 にアンケート結果を示す。実習期間に NOSAI と家畜保健衛生所の連携について何らかの経験をした学生は 165 名のうち 127 名 (77.0%) であった。「家畜保健衛生所に行った」、「獣医師と接触した(話をした)」、「検査業務に関わった」などの家畜保健衛生所との直接的な接触はそれぞれ 10-15% であったが、直接的な接触がなくても NOSAI の獣医師から説明を受けたことを含めると、多くの学生が NOSAI と家畜保健衛生所との業務を認識できたと考えられる。伝染病発生時等の異常時には NOSAI と家畜保健衛生所は密接に連携して防疫業務にあたるが、日常的に検査を依頼するようなことはそれほど多くはない。特に本事業において比較的参加人数が多い道県の NOSAI (北海道、千葉県、岡山県) は、充実した検査施設を保有しており、日常的な検査は NOSAI において実施している。そのため家畜保健衛生所へ検査依頼する機会が少ないことが、家畜保健衛生所との直接的接触が少ないことに反映しているように考えられた。



NOSAI と家保との連携業務を必要に応じて実体験させるプログラムを盛り込んだ本実習に参加することによって、一部ではあるが実際に学生が採材、検査、病理解剖、病理組織診断等を体験する機会や、家保の施設見学・業務見学や NOSAI と家保との間で行われる勉強会に参加する等の直接的機会を設けることができた。連携業務の理解度を図 15、実習の理解度の変化を図 16 に示す。

理解度については、「よく理解できた」または「理解できた」と答えた参加者は合計で 59%と多かった。その理由については、図 15 に示すように実習中に家畜保健衛生所との直接的な接触があったこと、あるいは NOSAI の獣医師から家畜保健衛生所との連携について説明を受けたことと関連していると考えられる。また、実習後の理解度の変化については、実習参加学生の 70%が本実習を通して NOSAI と家畜保健衛生所の連携業務について理解度が上がったと回答した。このことは、本事業に参加することによって産業動物臨床と家畜衛生との連携を知る機会が提供され、連携についての理解度が向上したと考えられる。しかし、アンケート結果が示すようにまだ理解が不十分な部分があり、産業動物臨床と家畜衛生の連携を周知するための活動を継続する必要があると考えられた。また、産業動物臨床と家畜衛生の連携については、本事業に参加しない学生に対しても広く周知する必要がある。



5. NOSAI 夏期臨床実習の効果評価 調査結果

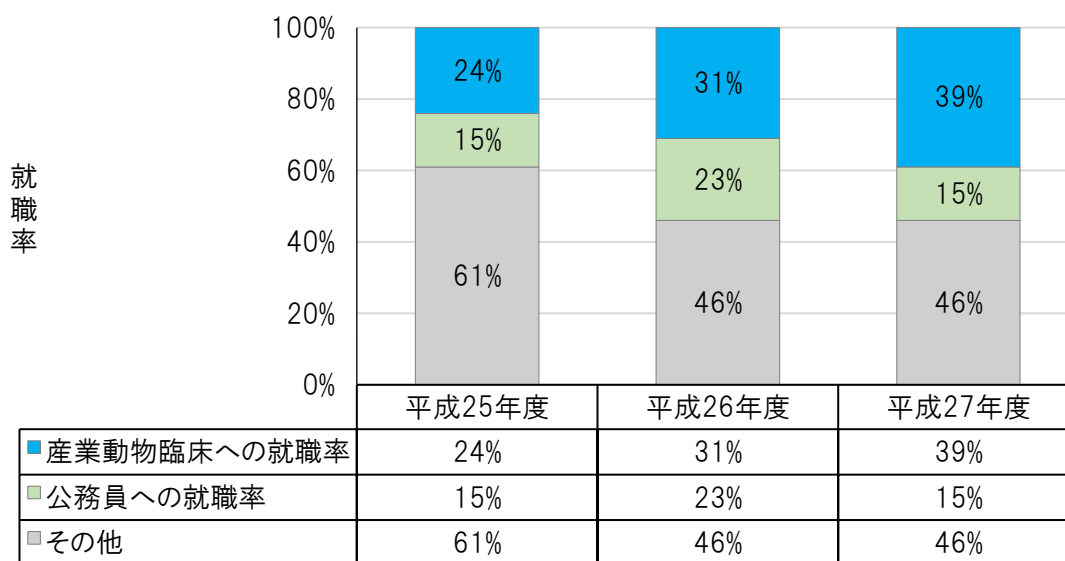
調査対象

このたび、本事業(平成 26～28 年度)の評価に資するため、平成 23 年度～25 年度に実施された文部科学省支援「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」と平成 26～28 年度に実施中の公共獣医事事業における農業共済団体(NOSAI)夏期臨床実習の参加学生の就職先を調査した。平成 23 年度から平成 27 年度の NOSAI 夏期実習に参加した獣医系 16 大学の 313 名を調査対象とした。16 大学からの回収率は 100%(16/16 大学)であった。各大学から 296 名の参加学生について回答があり、その回収率は 94.6%(296/313 名)であった。

夏期実習参加学生のうち平成 24 年度に卒業したのは 1 名のみであったので集計から除外し、平成 25 年度～平成 27 年度の 3 年間の卒業生の就職先を、産業動物臨床、地方公務員、それ以外の非畜産関連(その他)に分けて集計した。

調査結果

産業動物臨床および公務員への年度別就職率



産業動物臨床および公務員への年度別就職人数

	産業動物臨床	公務員	その他	合計
平成25年度	22	14	56	92
平成26年度	28	21	41	90
平成27年度	44	17	52	113

6. まとめ

平成 26 年度から開始された公共獣医事事業の事業内容について整理した。公共獣医事事業は、事業の開始が平成 26 年 10 月からであったため、8-9 月が実質的な実習期間である NOSAI 夏期実習には公共獣医事事業として学生を募集することができなかった。そのため公共獣医事事業では平成 26 年度は NOSAI に各県の家畜保健衛生所を含めた実習システムの構築のための準備期間とした。平成 27 年度は 10 の主要 NOSAI で事業を展開し、平成 28 年度は事業を全国に展開した。その結果、成 27 年度に 120 名、平成 28 年度は 166 名の参加があった。参加人数は減少傾向にあるが、参加型臨床実習が平成 28 年度から開始されたことを考慮すれば、産業動物に興味を持つ学生は必ずしも減ってはいないことを示すと考えられる。

本事業には 16 大学ほぼすべてから学生の参加があり、学生数を考慮すると、私立大学と国公立大学の差は無かった。参加型臨床実習の開始によって本事業の参加者が平成 28 年度に大きく減少した大学があったが、それでも他の私立大学並みの参加者数であった。学年別参加人数については、1 年生から 6 年生までの参加があり、5 年生が最も多かった。参加人数は、2 年生が増加傾向にあり、5 年生は減少した。単位取得目的の参加者が含まれる平成 27 年度以前とは異なり、平成 28 年度に本事業に参加した高学年の学生は就職先として産業動物関連を考えている学生が主体であると考えられる。今後は優れた産業動物獣医師を育てるためのより充実した内容のアドバンス実習の提供が必要である。いっぽう、実習参加者が増加傾向にある低学年についても、低学年向けの産業動物関連アーリーイクスポージャー実習プログラムを検討することも必要となってきた。

アンケートの結果では、実習参加者の満足度は高く、学生と指導にあたる獣医師の両方の意欲が向上したことと、実習内容が充実した結果であると考えられる。

本事業の目的の一つである NOSAI と家畜保健衛生所との連携に関しては、参加前のアンケートの結果から、学生には十分に周知されていないことが伺われた。しかし、本事業に参加した多くの学生が NOSAI と家畜保健衛生所との連携を認識し、理解したと回答した。このことは本事業に参加することによって産業動物臨床と家畜衛生との連携を知る機会が提供され、連携についての理解度が向上したことを示しと考えられ、本事業の目的はある程度達成されたと思われる。しかし、理解が不十分な部分があり、本事業に参加しない学生も含めて産業動物臨床と家畜衛生の連携を周知するための活動を継続する必要がある。

(参考)道府県別受入人数

公共獣医事業・夏期臨床実習

平成26-28年度道府県別参加人数表

0: 申込者なし -: 募集なし

	27年度	28年度
北海道	45	61
青森県	—	1
岩手県	—	3
宮城県	0	4
秋田県	—	6
山形県	3	2
福島県	—	3
群馬県	—	1
埼玉県	—	—
千葉県	27	32
神奈川県	—	3
山梨県	—	—
新潟県	—	—
石川県	—	0
富山県	—	—
長野県	—	2
岐阜県	—	5
静岡県	—	1
愛知県	—	4
滋賀県	—	2
京都府	—	—
兵庫県	2	4
奈良県	—	0
鳥取県	—	1
島根県	2	1
岡山県	15	10
広島県	5	1
山口県	—	2
香川県	—	1
高知県	—	1
福岡県	—	—
佐賀県	—	1
長崎県	—	1
熊本県	—	2
大分県	—	0
宮崎県	13	4
鹿児島県	8	6
沖縄県	—	1
計	120	166